

庄原市博物館・資料館の 新たな在り方基本計画（第3期） （令和3～7年度）



令和3年4月
庄原市教育委員会

目 次

第1章 計画策定にあたって

- 1. 第3期計画策定の趣旨 1
- 2. 博物館・資料館を取り巻く状況とその役割 1
- 3. 第2期計画の評価・検証 2

第2章 第3期計画の基本的考え方

- 1. 基本理念 21
- 2. 業務の体系 22
- 3. 基本的運営方針 22

第3章 博物館・資料館がめざすもの

- 1. 施策目的 23
- 2. 全館共通のテーマ及び各館のテーマ 23
- 3. 全館共通のビジョン及び各館のビジョン 24
- 4. 全館共通のミッション及び各館のミッション 24

第4章 計画の内容

- 1. 計画の体系 25
- 2. 具体的な取り組み 26
 - 各館共通 36
 - 本庁 38
 - 比和自然科学博物館 40
 - 帝釈峡博物展示施設時悠館 41
 - 口和郷土資料館 42
 - 庄原市歴史民俗資料館 43
 - 倉田百三文学館 44

第5章 事業評価の基準

- 1. 定期的な事業評価 45
- 2. 事業評価の視点 45
- 3. PDCAサイクルの実践 45
- 4. 将来に向けて 45

第1章 計画策定にあたって

1. 第3期計画策定の趣旨

「庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画（第2期）」（以下、「第2期計画」という。）は、令和2年度に最終年度を迎えたことから、「庄原市長期総合計画」や「庄原市教育振興基本計画」に基づき、第2期計画までの事業の成果や課題を踏まえ、社会情勢の変化と市民の要請に対応するなど、令和3年度から5年間の博物館・資料館の事業展開の基本計画として「庄原市博物館・資料館の新たな在り方計画（第3期）」（以下、「第3期計画」という。）を策定することとした。

2. 博物館・資料館を取り巻く状況とその役割

近年、私たちの生活は、科学や情報通信技術の発展、グローバル化の進展、価値観の多様化などにより大きく変貌してきた。これからもその変化の度合いやスピードは膨らみ加速されるものと思われる。また、本市においては、人口減少や少子高齢化傾向にある現状がますます深刻な状況になることが予測されている。

各地の博物館・資料館等では、こうした社会の変化に即応しつつ、地域の実情に合わせた持続可能な施設運営のもとで、市民等から負託された貴重な収蔵資料を未来へと守り伝え、地域に眠る新たな学術資源を掘り起こし、その成果を広く人々と共有し、未来への町づくりに貢献していく業務が、これまで以上に重要となっている。

こうした状況のもと、本市の博物館・資料館においても、中国山地の豊かな自然・歴史・文化に裏打ちされた各館の収蔵資料を市民の「宝物」と捉えなおし、全国に誇れる庄原市の宝物を守り伝え、磨き上げ、多くの市民との関わりの中で地域の物語として紡ぎ出し、後世へ広く語り伝えていくことが、全館共通の重要な社会的役割となりつつある。



庄原歴史民俗資料館に設置の市内博物館・資料館ガイドスコーナー（田園文化センター内）

3. 第2期計画の評価・検証

第2期計画では、「全国に誇れる市民の博物館・資料館」をコンセプトに「第1期庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画」（以下、「第1期計画」という。）から掲げていた将来像「①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館」、「②市民参加型の魅力ある博物館・資料館」、「③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館」を目標に、下記の業務の体系のとおり各館の固有機能・収集保管機能・調査研究機能・教育普及機能の向上に係る事業を各館の基本業務と他分野との連携・啓発を基軸に展開した。

この業務の体系における各項目「(1)館運営の基本的業務」、「(2)3大機能の向上」、「(3)連携・啓発の推進」、「(4)連携・啓発の推進と3大機能の向上」ごとに第2期計画の事業の評価・検証を行う。

第2期計画の3つの目標 (第1期計画で掲げた将来像)	①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館
	②市民参加型の魅力ある博物館・資料館
	③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館
目標達成に向けたコンセプト	全国に誇れる市民の博物館・資料館

■第2期計画の業務の体系

	館固有機能	3大機能		
		収集保管機能	調査研究機能	教育普及機能
基本的業務	(1) 館運営の基本的業務 ア. 各館のテーマ及び方針の明確化 イ. 各館・支所・本庁が連携した管理運営体制の確立 ウ. ニーズを反映した親しみやすい館運営と施設管理	(2) 3大機能の向上		
		ア. テーマに基づく系統的な資料収集 イ. 収蔵資料の整理と保存 ウ. 資料の記録管理及び貸出	ア. テーマに基づく資料の調査研究 イ. 展示及び運営に関する調査研究 ウ. 周辺の自然・歴史・文化に関する調査研究	ア. テーマに基づく展示の充実と更新 イ. 学習支援の充実 ウ. 情報発信
連携・啓発	(3) 連携・啓発の推進 ア. 教育機関と連携した館運営 イ. 市民と連携した館運営 ウ. 産業と連携した館運営	(4) 連携・啓発の推進と3大機能の向上		
		ア. 教育機関と連携した収集保管の推進 イ. 市民と連携した収集保管の推進 ウ. 産業と連携した収集保管の推進	ア. 教育機関と連携した調査研究の推進 イ. 市民と連携した調査研究の推進 ウ. 産業と連携した調査研究の推進	ア. 学習プログラムの充実と体系化 イ. 教育機関と連携した教育普及の推進
				ア. 市民による教育普及の推進 イ. ボランティアガイド養成講座の開催 ア. 観光イベントへの参画 イ. ボランティアスタッフによる館外活動 ウ. ガイダンス機能の向上

(1) 館運営の基本的業務

体系区分	事業の分類区分
基本的業務	<ul style="list-style-type: none"> ・各館のテーマ及び方針の明確化 ・各館・支所・本庁が連携した管理運営体制の確立 ・ニーズを反映した親しみやすい館運営と施設管理

第1期計画では、各館の運営に関する基本的業務の充実に向けた事業を明記していなかった。この課題に対して、第2期計画においては基本的業務の強化を図るため、まず、各館の実情を見つめ直した上で、その特色を活かした運営方針を作成することにより、取り組むべき運営の方向性が明確になり、具体的な事業の実施が可能となった。

また、アンケートの実施などにより利用者の具体的なニーズを把握することで、各館の特色を活かした親しまれる博物館運営を図ることができ、その成果は入館者増という数字にも表れている。

一方、各館・支所・本庁の連携のために実施した連絡調整会議は、博物館・資料館運営協議会の準備会にとどまり、各部署の役割の明確化と連携体制の強化には至らなかった。

(2) 3大機能の向上

体系区分	事業の分類区分
収集保管機能	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに基づく系統的な資料収集 ・収蔵資料の整理と保存 ・資料の記録管理及び貸出
調査研究機能	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに基づく資料の調査研究 ・展示及び運営に関する調査研究 ・周辺の自然・歴史・文化に関する調査研究
教育普及機能	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに基づく展示の充実と更新 ・学習支援の充実 ・情報発信

第1期計画では、資料収集・整理保管・教育普及・調査研究の全ての機能の向上を主軸とする事業展開を掲げた。しかし、教育普及に関する常設展示以外の活動は、十分に進まなかった。このため、第2期計画においては収集保管・調査研究・教育普及からなる3大機能に基づく体系の中に各事業を明確に配置し直し、各機能の向上を図ることでより体系的かつ集約的な事業展開に取り組んだ。

収集保管機能については、各館のテーマに基づく系統的な資料収集を行い、収蔵資料の整理と保存をすることができており、今後はデータベース化を進め、データベースを誰もが利用可能な状態にする必要がある。**調査研究機能**については、各館の収蔵資料の調査研究の成果を館運営に活かし地域還元を果たすことができた。**教育普及機能**については、常設展示の

見直しを実施するとともに企画展等を計画的に実施することができた。機能の向上に関しては、第2期計画の中で安定的な仕組みの構築ができ、全体的に底上げできた。

特に、収蔵資料を再編集し新たな価値を創造していく調査研究活動は、館活動の中核的業務といえるもので、各機能の全体的な底上げを図る上でも不可欠であることから、調査研究機能の向上にむけた取り組みを積極的に進めてきた。

(3) 連携・啓発の推進

体系区分	事業の分類区分
連携・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関と連携した館運営 ・市民と連携した館運営 ・産業と連携した館運営

第1期計画では、多様な主体との連携が十分には進まなかった。第2期計画においては、連携・啓発の推進を館運営の重要課題と捉え直し、市民や、広く市外の専門家も含めた強力な連携体制の構築に向けた実践的な仕組みを構築することを目指した。大学・研究機関や市民活動、地域産業との連携を図り、資料調査や研究発表等に収蔵資料の提供を行い、その成果を地域に積極的に還元することもできており、仕組みづくりは大きく前進した。今後は連携先との共同事業推進の強化を行っていく必要がある。

(4) 連携・啓発の推進と3大機能の向上

第2期計画では、第1期計画の成果と課題において、未達成の事業があることや個別的な事業展開に陥りやすかったことなどから、課題解決に加え「目標達成型」の視点も重視し、第1期計画に記載した3つの将来像（①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館、②市民参加型の魅力ある博物館・資料館、③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館）に加えて、「全国に誇れる市民の博物館・資料館」を全館共通のコンセプトとして掲げ、**連携・啓発の推進と3大機能の向上**に向けた目標達成型の取り組み（123事業）を展開した。

教育分野では、「利用の手引き」により、カリキュラムの活用例を示し、学校関係者からの相談に応じることができ、利用促進につながっている。

自治振興分野では、「時悠館友の会」が立ち上がるとともに、比和自然科学博物館で博物館インストラクター、客員研究員を中心とした協力者により、地元密着した博物館事業の推進を図ることができている。

産業振興分野では、国営備北丘陵公園イベントでの展示による参画や観光施設の協力による配布物や掲示物による広報周知を実施することもできている。

第3期計画では、これまでの計画で積み上げてきたものを引き継ぎながら、より一層特色を活かした事業を展開することで、「全国に誇れる市民の博物館・資料館」を目指した各分野の連携を進める。

■業務成果・課題総括表

凡例

表中項目	表示	内容	表中項目	表示	内容	判断基準
対象館	【全体】	全体	有効性	A	非常に高い	取組みの目的・目標が十分に達成された
	【比和科博】	比和自然科学博物館		B	高い	取組みの目的・目標に対して、達成状況は高かった
	【時悠館】	帝釈峡博物展示施設時悠館		C	普通	取組みの目的・目標に対して、概ね達成された
	【口和郷土館】	口和郷土資料館		D	低い	取組みの目的・目標に対して、達成状況は低かった
	【庄原歴史館】	庄原市歴史民俗資料館		E	非常に低い	取組みの目的・目標が殆ど達成できなかった
	【倉田文学館】	倉田百三文学館	継続性	A	完了	計画どおり取組みが完了（終了）した
	【全収蔵室】	全収蔵学習室		B	拡大継続	取組みの効果が高いため、さらに拡大または充実して継続すべきである
	【西城収蔵室】	西城収蔵学習室		C	現状継続	取組みの効果が認められるため、継続すべきである
	【総領収蔵室】	総領収蔵学習室		D	改善継続	取組みの効果が低いため、改善して継続すべきである
	【高野支所】	高野支所		E	廃止	取組みを廃止すべきである

※ 判断基準は、庄原市教育委員会の教育行政施策の方針の評価法に準拠

基本方針	体系区分	事業区分	対象館	主な取り組み	有効性	継続性	成果・課題
(1) 館運営の基本的業務	基本的業務	ア.各館のテーマ及び方針の明確化	【全体】	ビジョン・ミッションの明確化及びテーマの再確認と事業実施	A	C	テーマ・ミッション・ビジョン及び運営方針に基づき親しまれる館運営を図ることができ、博物館運営の具体的な方向性も明確になった。次期在り方計画の策定に伴い、各館の実状にあった内容に見直しが必要。
			【全体】	運営方針の決定と事業実施	A	C	ビジョン・ミッションや在り方計画に基づいた運営方針を決定することで、具体的な事業実施が可能となった。次期在り方計画では、各館の実情に沿った内容の見直しが必要。
			【口和郷土館】	親しまれる愛称の選定	C	C	検討委員会で選定が良いのか、または広く公募が良いのか検討している。
		イ.各館・支所・本庁が連携した管理運営体制の確立	【全体】	各館・支所・本庁の役割分担と事務分掌の明確化	B	D	各館・支所・本庁の役割分担と事務分掌の明確化が進んでいない。実施可能な本庁統括の在り方を基本に、各支所の実情、各館の運営規模等を考慮して管理運営体制を確立する必要がある。また、博物館・資料館・学習室の各運営規模に分けた役割の明確化を検討する必要がある。
			【全体】	連絡調整会議の定期開催	A	D	現在は博物館運営協議会に向けた準備会の実施となっているが、会議設置の当初の目的である綿密な連携体制の構築のための会議には十分ではない状況であった。
			【全収蔵室】	施設管理及び資料活用に係る業務のマニュアル化	A	D	資料活用（貸与・受贈・受寄）に関する事務はマニュアル化できているが、施設管理に関するマニュアルは作成できていない。

基本方針	体系区分	事業区分	対象館	主な取り組み	有効性	継続性	成果・課題
		ウ. ニーズを反映した親しみやすい館運営と施設管理	【全体】	利用者ニーズの把握及び具体的な館運営への反映	B	C	アンケート調査を実施したことにより具体的な利用者の意見を集約できた。今後は把握したニーズに基づき入館増につながる企画立案を図る。また、割引券制度の導入に係り、入込客調査として割引券の試験的实施を行った結果、一定の効果が認められた。しかしながら、条例改正を見込んだ市内博物館での導入を検討した結果、入館受付業務における物理的な問題点等から、本格的な実施に至らなかった。今後は近隣市町の入館者増につながる制度を参考に継続した検討が必要。
			【全体】	案内標識等の増設・新設	A	B	野外案内看板修繕や館内入口案内表示及び受付案内表示等の新設など実施ができた。市内全域の課題として、インバウンドに対応の表示（案内標識及び説明板）改善の検討が必要。
			【全体】	LED化等、施設管理の向上（長寿命化及び改修を含む）	A	B	優先順位をつけて実施することにより、施設の利便性が向上した。また、第2期計画内では大きな施設改修等は実施していないが、施設老朽化や展示改善のため、今後改修が必要になってくる。
			【全体】	キャンパスメンバーズ制度の周知・広報	B	C	広島大学、県立広島大学へのキャンパスメンバーズ制度の告知を行った。今後も継続しての取り組みを実施する。
			【全体】	市内高等学校等の利用優遇措置の検討と実施	B	C	運営協議会からの指摘があったものの、担当者会議等では具体的な検討は行われなかった。
			(2) 3 大機能の向上	収集保管機能	ア. テーマに基づく系統的な資料収集	【全体】	各館の運営方針（収集保管）に基づく系統的な資料収集
【口和郷土館】	音響・映像機器収集事業	B				C	マスコミ、口コミにより全国から音響映像の寄贈や情報が寄せられ、情報収集に繋がった。
イ. 収蔵資料の整理と保存	【全体】	庄原市教育委員会所蔵資料取扱規則に基づく資料等の受入と資料台帳への記載			B	C	庄原市教育委員会所蔵資料取扱規則に基づき、資料受入れ及び標本資料報告書での整理等、台帳未記入の見直しを行った。
	【全体】	所蔵資料等の整理・保存			B	C	資料を随時受入れるとともに分類整理を行い、来館者に分かりやすい展示に努めた。比和自然科学博物館収蔵の標本資料分類整理等は広い知識と経験が必要なため、当面、比婆科学教育振興会へ委託するが、今後、直営でも対応できる体制づくりも必要となる。
	【全体】	データベース入力・更新、共有			B	C	分類整理を行い、電子データ化を行い利便性の向上を図ったが、一部紙ベースの台帳整理の収蔵資料があるため、現物資料との照合と共にデータベース化が必要となっている。

基本方針	体系区分	事業区分	対象館	主な取り組み	有効性	継続性	成果・課題	
			【全体】	日常的な点検・清掃	B	C	常に安全で綺麗な資料館になるよう、日常点検・清掃を実施した。	
			【全体】	各施設の計画的な燻蒸	B	C	市内博物館及び資料館を各年度で巡回し、計画的に実施している。	
			【全体】	動物標本資料の保存・活用・整理	B	C	はく製になっている動物標本資料については、収蔵庫において状況を確認しつつ、保存ができています。今後、常設展示の再構成にあたっては、活用可能なはく製の個体の状態を再度把握しておく必要がある。また、動物標本資料ははく製の作成技術者が不在であるため、博物館に協力してくれる作成技術者を探さなければならない。	
			【高野支所】	高野地域の民俗資料の保存管理	B	A	収蔵資料の台帳整理を実施し、資料のデータ化に取り組んだ。	
			【高野支所】	高野収蔵学習室の整備	B	C	収蔵学習室の整備については、現行施設を整備する方向とする。今後は建築基準法・消防法に則り整備するため課題調査し、予算化に取り組むこととする。	
			【比和科博】	自然科学系資料の整理の方法について検討及び実施	A	C	標本資料整理等は比婆科学教育振興会に委託しているが、作業員から化石及び岩石の整理方法について、館長へ説明をもらう機会を設け、一部館長により実務を行うことができた。	
			【比和科博】	寄贈資料の分類整理	A	C	寄贈資料に係る標本資料整理等は比婆科学教育振興会に委託しており、専門的手法による系統的な分類整理ができた。	
		ウ. 資料の記録管理及び貸出		【全体】	庄原市教育委員会所蔵資料取扱規則に基づく所蔵資料等の貸出と資料管理台帳への記載	B	C	庄原市教育委員会所蔵資料取扱規則に基づき、資料貸出・資料見学対応等の手続きを行った。
				【全体】	寄託資料の更新	B	C	寄附申請書により実施した。また、資料台帳に基づき、寄託期間の期限をむかえた資料については、更新事務を実施できた。
				【全体】	データベース入力・更新、共有	B	C	分類整理を行い、電子データ化を行い利便性の向上を図った。
		調査研究機能	ア. テーマに基づく資料の調査研究	【全体】	各館の運営方針(調査研究)に基づく収蔵資料の調査研究	A	C	運営方針に基づく資料の調査研究に努めた。
				【全体】	調査研究を反映した館運営及び地域還元	A	C	調査研究の成果を博物館研究報告や植物誌の発行による社会還元、館内各種講座や出前講座等による地域還元を図った。また、収蔵資料を活かした取り組みとして、常設展示の再構成、特別展での収蔵資料及び記録の活用等を行い社会還元を図った。
				【庄原歴史館】	教科書等収蔵資料の調査・研究	B	C	教科書収蔵資料の整理を行い資料の把握ができた。今後、活用を図っていく。
				【口和郷土館】	収蔵する音響、映像機器に関する調査	B	C	マスコミ、ロコミにより全国から音響映像の寄贈や情報を収集した。

基本方針	体系区分	事業区分	対象館	主な取り組み	有効性	継続性	成果・課題
		イ. 展示及び運営に関する調査研究	【全体】	展示及び運営に関する事例調査	B	C	県内外の他館を視察、館長及び学芸員の日々の展示に関する協議や博物館インストラクターからの展示改善に関する意見調査などを実施し、展示及び博物館の運営に関する方向性を見直す一助となった。
			【全体】	調査成果を反映した展示及び館運営	B	B	展示改善等に関する意見集約後に、館長・名誉館長・学芸員により、すぐに実現可能な内容から取り組みを行った。また、館長及び学芸員の日々の展示に関する協議や、博物館インストラクターからの展示改善に関する意見調査などを実施し、展示及び博物館の運営に関する方向性を見直す一助となった。
			【口和郷土館】	音響・映像機器の動態展示にかかる調査研究	B	C	マスコミ、ロコミにより全国から音響映像の寄贈や情報が寄せられ、情報収集に繋がった。
		ウ. 周辺の自然・歴史・文化に関する調査研究	【全体】	地域資源の掘り起こしと調査研究	B	C	時悠館では、帝釈峡周辺のスカルン鉱床、比婆山信仰、帝釈天信仰にまつわる調査研究を進めた。比和自然科学博物館では、吾妻山植物調査、比婆山植物調査、比婆山甲虫調査により、現在の中国山地における自然資源の掘り起こしと共に、その背景にある研究史等についても掘り起こしができた。そのほかの館では、郷土学習による学びはあるが、専門的な調査研究は今後の課題である。
			【全体】	調査成果の地域還元	B	C	調査研究の成果にもとづき、館内各種講座や出前講座等で地域還元を図った。
		教育普及機能	ア. テーマに基づく展示の充実と更新	【全体】	各館の運営方針(教育普及)に基づく展示の充実と更新	A	C
	【西城収蔵室】			宮田武義コーナーの定期的な展示更新と書画類の公開	B	C	価値のある所蔵資料の展示更新に努めた。定期的な更新の実施に努めた。
	【時悠館】			帝釈峡遺跡群や屋外展示物の整備と活用	A	B	来館者に「驚き・発見・感動」を与える企画展を企画し、継続的に開催した。「帝釈峡ビジターセンター」としての役割を果たせるよう、教育普及機能の向上に向けた業務を精力的に展開した。
	【比和科博】			地学分館の展示施設の充実	A	C	現生のクジラの骨格標本展示について、漂白整理・展示・解説板整理が完了した。また、常設展示室Ⅱにおける大型化石・岩石標本展示用展示ケースを令和2年度内に設置し、大型化石・岩石標本の内容充実を図った。

基本方針	体系区分	事業区分	対象館	主な取り組み	有効性	継続性	成果・課題
			【比和科博】	特別展の開催（隔年開催）	A	C	特別展とミニ企画展の実施に向けた調査研究を深め、関係機関や研究者との連携及び協力により、展示を開催した。 ・広島県の蝶-その多様性と現状（H29） ・植物学者牧野富太郎が登った吾妻山-吾妻山植物誌の完成を記念して（R01）
		イ. 学習支援の充実	【全体】	講演会の計画と実施	B	C	地域資源を学ぶ講演会、年1回音楽コンサート、博物館インストラクターによる講演会を実施した。
	【全体】		博物館講座の開催と充実	B	C	年1回程度の講座、文化講演会を実施した。時悠館では、各地の自治振興区へ時悠館出前講座を行い、博物館講座の充実を図った。比和自然科学博物館では、年間10回程度の博物館公開講座を実施し、その講座の中の1つとして、宮島水族館と比和自然科学博物館の双方に出向き合って講座を行う宮島水族館との交流事業を実施したことにより、充実した博物館講座を展開した。	
	【全体】		パネル展示の計画と実施	B	B	地域おこし協力隊員との連携により地域課題をテーマとしたパネル展を開催できたが、未実施の館もあるので継続して行う。	
	【全体】		スポット展示の計画と実施	B	C	タイムリーで話題性の高い研究成果をミニ企画展やスポット展示を行った。	
		ウ. 情報発信	【全体】	市長定例記者会見等を活用したマスコミへの情報発信	A	C	プレスリリースにより、特別展や常設展示更新、博物館公開講座等の博物館情報を発信し、テレビ、新聞、ラジオ等各種マスメディアの協力を得ながらのPRの取り組みを展開した。
	【全体】		観光協会ホームページへのコンテンツ提供	A	C	庄原市観光協会・庄原DMOと連携し、博物館行事の情報提供を行い、観光関連コンテンツに情報掲載してもらい、PRを実施した。	
	【全体】		市ホームページへのバナー開設	B	C	バナー開設の取り組みを行っていない。	
	【全体】		各館ホームページの充実と更新	A	C	HPを充実させるため、資料収集や写真撮影を行い、インターネットの構築を図った。また、HP掲載内容をできるだけ最新の情報となるよう更新を継続し、公式HPであることの強みを生かした情報発信を実施した。特に平成30年度から博物館公開講座の年間予定表を掲載することで、PR効果が高まった。	
	【全体】		リンク先のコンテンツ充実	B	C	HP内において、特に新着情報や催し物について、コンテンツの充実を図った。また、博物館友の会のラインなどSNSを活用した周知活動を実施した。	

基本方針	体系区分	事業区分	対象館	主な取り組み	有効性	継続性	成果・課題
(3) 連携・啓発の推進			【全体】	冊子・パンフレット等の計画と作成・発行	A	C	パンフレットの改定を行い、来館者の満足度を上げるとともに、適宜パンフレットの増刷を行い、近隣観光施設を中心にPRにも活用した。また、夏休み期間の博物館行事や冬休みにも博物館へ行くなど、季節の折に入館者誘引に向けた周知ポスターを作成しPR活動を展開した。
			【時悠館】	帝釈地域の遺跡と自然・文化の案内	A	B	館長・学芸員による帝釈遺跡群や自然・文化の案内を積極的に行った。
			【倉田文学館】	倉田百三に関する印刷物の発行	A	C	倉田百三文学館パンフレットの作成や広報紙への掲載等を行い、本館及び関連施設へパンフレット設置し、来館者や市民に広く情報発信することができた。
			【倉田文学館】	倉田百三ゆかりの地説明看板等の設置	A	A	倉田百三ゆかりの地に説明看板設置を行い、市民や刊行者等に広く情報発信することができた。
		ア. 教育機関と連携した館運営	【全体】	教育機関との連携の推進	A	C	市内小中学校との連携により、総合的な学習の時間の支援、博物館見学を通じた学習支援、出張授業による学習支援を通して、博物館学校連携事業を推進した。また、市外学校についても展示解説での学習支援、大学研究者及び学生への資料貸与による研究支援、交換文献を通じた研究支援、福山市しんいち歴史民俗資料館、広島県立歴史民俗資料館へ資料提供や館長派遣等を実施した。
				研究機関・専門家等との連携による館機能の向上	A	C	大学や博物館などの研究機関への資料貸与を通じた研究支援による連携や、比婆科学教育振興会や庄原化石集談会など地域の研究組織との連携により実施した。
		イ. 市民と連携した館運営	【全体】	ボランティアスタッフと共に行う館活動の検討及び実施	B	C	倉田百三文学館では、友の会と連携し講演会を行った。時悠館では友の会を立ち上げることができた。口和郷土資料館は後援会があるが、展示解説等を行う活動の実施には至っておらず、検討課題である。比和自然科学博物館では、博物館インストラクター、客員研究員を中心とした協力者による博物館事業（展示解説対応や公開講座の実施等）の推進ができた。
				市民主体の活動組織と共に行う館活動の協議及び実施	B	C	自治振興区との協同体制の構築に着手した。また、友の会の会員への博物館行事の周知と共に、会の協力による博物館行事の実施ができた。
				人材を登録し活用する仕組みの構築(地域版、全市版)	B	C	現在の博物館インストラクターや客員研究員、博物館協力者の名簿を備え、各者の得意部門の関係事業について協力を得る仕組みが構築できた。

基本方針	体系区分	事業区分	対象館	主な取り組み	有効性	継続性	成果・課題
			【全体】	市民が気軽に集まれる雰囲気の醸成	B	C	館長や博物館インストラクターによる展示解説実施を行った。観光施設でのチラシ配布やポスター掲示での周知を行うとともに、実際の入館者への説明においても入館者の年齢層などの状況に応じた解説を行うことにより、市民が気軽に集まれる雰囲気づくりを醸成できた。また、周辺の環境整備、草花の自然を活用したインテリアコーディネートにより、館内の明るい雰囲気づくりができ、来館者の満足度を上げることができた。
			【庄原歴史民館】	庄原市郷土史研究会との連携の検討	B	D	研究会会員個々との連携を図り、講演会の開催や展示の更新等、館運営に反映してきた。今後は庄原市郷土史研究会との連携を図る必要がある。
			【倉田文学館】	倉田百三友の会との連携	A	C	友の会との連携を図り、倉田百三に関する書籍等の資料収集・展示ができた。
			【時悠館】	郷土史研究サークル等との連携の検討	A	C	東城町ふるさと今昔の会と連携した講座の開催。今後も継続しての取り組みを行っていく。
			【比和科博】	比婆科学教育振興会との連携	A	C	比婆科学教育振興会の自然科学分野の研究ノウハウを活かし、博物館研究報告及び標本資料報告の作成、標本資料の作成及び整理等の比和自然科学博物館の研究部門について業務委託をする形で連携を図った。
			【比和科博】	庄原化石集談会との連携	A	C	化石研究者への資料貸与に係る助言や地学分館の展示解説板の作成支援等、庄原化石集談会の化石研究のノウハウを活かした連携が取れている。
			【比和科博】	客員研究員、インストラクターとの連携	A	C	客員研究員や博物館インストラクターによる博物館公開講座や展示解説対応等が定着し、比和自然科学博物館の特色ある活動となった。特に博物館インストラクターについては、年1回の研修の機会を設け、その資質向上の取り組みも実施できた。
			【口和郷土館】	口和郷土資料館後援会との連携	B	C	年10回定期音楽会を実施し、約280名が来館しており、安定した来館者が見込まれた。
			【口和郷土館】	球楽達人の会との連携	A	C	6月、11月に真空管アンプ音楽鑑賞会を実施し、2日間で、遠くは横浜市、福岡市より来館され250名が施設を見学した。口コミで広がり新規の来館者獲得になった。
		ウ. 産業と連携した館運営	【全体】	観光産業組織との連携に関する協議及び事業実施	A	C	庄原市観光協会等及び観光関係者との連携により帝釈峡周辺の地域資源の掘り起こしを進めた。また、吾妻山ロッジや道の駅たかの等の近隣観光施設との連携により、入込客調査として割引券の試験的实施を行った。

基本方針	体系区分	事業区分	対象館	主な取り組み	有効性	継続性	成果・課題
(4) 連携・啓発の推進と3大機能の向上	収集保管機能	ア. 教育機関と連携した収集保管の推進	【全体】	大学と連携した系統的な資料収集	B	C	時悠館では、広島大学を始め各研究者と連携した関連資料の収集に努め、スカルン鉱物関連論文等の収集を進めた。比和自然科学博物館では、鳥取大学からのミンククジラの骨格標本の寄贈以降、大学と連携した資料収集は進んでいない。歴史民俗資料館では、大学関係者から庄原英学校の教科書及び参考書の寄贈を受けた。倉田百三文学館では、県立広島大学庄原キャンパスから倉田百三・火野葦平の資料を、また同大学関係者から「出家とその弟子」オランダ語版を寄贈して頂き、資料収集した。
			【全体】	専門家や研究団体等との連携	B	C	時悠館では、東城小6年生との連携により収集保管業務の体験プログラムを構築した。口和郷土資料館では、三次科学技術研究教育協会と物づくりについて連携した。比和自然科学博物館では、岩石鉱物専門家やアマチュア昆虫研究者などからの資料提供などが進んでいる。また、今後、庄原化石集談会のクジラの研究成果が発表されたものについて、地学分館への寄贈の計画もある。
			【比和科博】	現生クジラ骨格標本の漂白整理等	A	A	鳥取大学からの寄贈によるミンククジラについては、漂白整理・展示・解説板整理が完了した。
		イ. 市民と連携した収集整理	【全体】	収集保管活動を通じて市民が本物の資料に触れる機会の提供機会を提供している	B	C	小奴可地区芸能保存会・比婆山伝説ガイドツイハラの会等、関係者の協力を得て、企画展開始に向けた関係資料を収集できた。また、博物館展示解説及び博物館公開講座の場を活用し、積極的に市民が本物に触れる機会を提供できた。
			【全体】	ボランティアスタッフと連携した収集整理	B	C	資料によっては博物館インストラクターや客員研究員の協力を得ながらの資料整理を行える体制をとっている。
		ウ. 産業と連携した収集整理	【全体】	地域の産業と連携した地域密着型の資料収集	B	C	地域産業との連携による資料収集は現在のところない。
			【全体】	関連産業等との連携による系統的な資料収集	B	C	県外博物館への資料貸与による企画展協力や県外植物園からの資料借用による特別展実施の連携あったが、系統的な資料収集までには至らなかった。

基本方針	体系区分	事業区分	対象館	主な取り組み	有効性	継続性	成果・課題
	調査研究機能	ア. 教育機関と連携した調査研究の推進	【全体】	研究機関等と連携した収蔵資料の調査研究	B	C	時悠館では、広島大学及び関連学会と連携して資料調査を進めることができた。比和自然科学博物館では、比婆科学教育振興会・庄原化石集談会・博物館客員研究員による研究発表等に、博物館として収蔵資料の提供等による協力をを行い、収蔵資料の調査研究に寄与してもらえた。
			【全体】	研究機関等と連携した地域資源の調査研究	B	C	時悠館では、文科省科研費研究への参画、学会報告、広島大学考古学研究室研究紀要共同執筆等を行った。比和自然科学博物館では、比婆科学教育振興会・庄原化石集談会・博物館客員研究員による研究発表等に博物館として収蔵資料の提供等による協力することにより、地域資源の調査研究に寄与してもらえた。他の館も地域資源の活用など調査研究を進める必要がある。
			【全体】	調査成果の市民への還元	B	C	調査成果は、展示解説での説明や特別展やミニ企画展などで市民に還元できた。
			【比和科博】	自然科学分野調査研究	A	C	比婆科学教育振興会・庄原化石集談会・博物館客員研究員による研究発表等に、博物館として収蔵資料の提供等による協力ができたことにより、収蔵資料の調査研究に寄与してもらえた。
			【比和科博】	民俗分野調査研究	A	C	比和牛供養田植に関する収蔵資料を基に、比和郷土芸能保存会との連携により、地域民俗文化財に関して魅力を高める調査研究の実施ができた。
			【口和郷土館】	外部の博物館との連携強化	B	C	福山市しんいち歴史民俗資料館、広島県立歴史民俗資料館へ資料提供や館長派遣により口和郷土資料館を知ってもらう機会になった。
		イ. 市民と連携した調査研究の推進	【全体】	市民参加型の調査研究	B	C	東城小学校 6 年生総合的学習の時間との共同研究をはじめ、比婆山伝説ガイドツイハラの会との比婆山学推進、帝釈文化研究会との御神山研究、時悠館友の会の立ち上げ等を進めた。また、比和中学校の総合的な学習の時間の活用により、比和地域のソバに関する自然学習を行う中で、数年にわたりソバの周辺の生態系の調査なども行っている。他の館も市民参加型の調査研究をさらに進めるようにする。

基本方針	体系区分	事業区分	対象館	主な取り組み	有効性	継続性	成果・課題
			【全体】	調査成果の地域社会への還元	B	C	企画展「大山開山1300年と大山供養田植」「知られざる比婆山信仰の世界」「時悠館アピール大作戦」等を通じて還元した。また、比和中学校の比和地域のソバに関する自然学習について、ディスカバリールームを活用し、展示発表を行い、地域社会への還元ができた。他の館も調査成果などについて、還元する方法を検討する必要がある。
			【庄原歴民館】	教科書等収蔵資料の調査・研究	B	C	教科書収蔵資料の整理を行い、資料の把握ができた。今後、年代を追った教科書の変容が分かる展示を行っていく。
			【比和科博】	吾妻山の植物調査	A	A	平成27年度から3年かけて吾妻山の植物(維管束植物)の調査を実施し、その調査成果を広く還元するため、今年度「吾妻山植物誌」を作成した。今回の調査により広島県初記録となった植物や、吾妻山特有の景観であるシバ草原の変容、維管束植物目録及び図版など、吾妻山の自然に関する学術的な情報を収録しており、吾妻山に限定して維管束植物をとりまとめた書籍としては初めてのものになった。
			【比和科博】	比婆山の昆虫調査	A	A	平成28年度から3年かけて比婆山の甲虫の調査を実施し、その成果を広く還元するため、令和元年度の博物館研究報告書において調査結果を報告した。比婆山植物調査と合わせて、特別展での活用を検討している。
			【比和科博】	比婆山の植物調査	A	A	平成30年度から3年かけて比婆山の植物(維管束植物)の調査を実施し、その調査成果を広く還元するため、今年度「比婆山植物誌」を作成させた。比婆山甲虫調査の成果と合わせて、特別展での活用を検討している。
		ウ. 産業と連携した調査研究の推進	【全体】	地域産業と連携した調査研究	B	C	庄原市観光協会及び観光関係者との連携により帝釈峡周辺の地域資源の掘り起こしを進めた。また、比和牛供養田植に関する収蔵資料を基に、比和町郷土芸能振興会との連携により、地域民俗文化財に関して魅力を高める調査研究の実施ができた。他の館では、地域産業と調査研究できる部分が少ないため、調査研究は行っていない。

基本方針	体系区分	事業区分	対象館	主な取り組み	有効性	継続性	成果・課題	
基本方針	体系区分		【全体】	調査成果の産業分野への還元	B	C	収蔵資料、地域資源、地域課題等に関する調査研究を進め、その成果を地域づくりや産業振興へ還元した。また、比和自然科学博物館では、平成 28 年度に比和牛供養田植解説展を実施することで、地域の魅力を発信することができた。今後、比和牛供養田植の展示の再構成により内容を充実させる。	
			ア. 学習プログラムの充実と体系化	【全体】	各教科のカリキュラムに応じた体験メニューの開発	A	C	博物館利用の手引きにより、カリキュラム活用例を示し、学校関係者からの相談に応じることができている。
				【全体】	出前講座の全市的な展開	B	C	市内各地の自治振興区や団体を対象に積極的に出前講座を行った。
				【全体】	所蔵資料等を活用した教材化	A	C	口和郷土資料館では、教科書で学ぶことのできない、動態展示物を見て、触れて、動かすことで、学習を深めることができた。引き続き全館で取り組んでいく。
				【全体】	貸出用教材の精選と活用	B	C	土器パズル等を希望があれば貸与を行い、情報発信を図った。なお、収蔵資料の貸与については、教員からの希望により、一般の資料の貸与手続きにより対応しているが、取り扱いに慣れている教員であることを確認し、貸与を許可した。今後も貸与に耐える教材資料であれば、可能なものを精選して、できるだけ教育現場が希望する資料の提供を継続する。
				【全体】	バス貸出の全市での実施	A	B	博物館利用の手引きを作成し、生涯学習課文化振興係において学校関係者へ周知した結果、小学校や子ども教室などの博物館見学学習等の利用を推進することができた。
			イ. 教育機関と連携した教育普及の推進	【全体】	「手引き」の作成と配布	B	C	作成済、運用中。
				【全体】	郷土学習支援事業	B	C	博物館利用の手引きにより、カリキュラム活用例を示し、学校関係者からの相談に応じ、館長・職員等の出張授業や館内講座などの実施による対応ができている。
				【全体】	放課後子供教室	B	C	博物館利用の手引きにより、カリキュラム活用例を示し、放課後子供教室関係者からの相談に応じ、実施の対応ができている。
				【全体】	放課後児童クラブ	B	C	博物館利用の手引きにより、カリキュラム活用例を示し、放課後児童クラブ関係者からの相談に応じ、実施の対応ができている。

基本方針	体系区分	事業区分	対象館	主な取り組み	有効性	継続性	成果・課題
	② 自治振興分野		【全体】	教員との研究会開催等	B	C	例年、近隣教育委員会による各種研修及び研究会の開催による博物館見学における館長による展示解説対応を実施している。
			【比和科博】	市外の学校との連携強化	A	C	市外学校からの社会科見学等で博物館見学の相談があった場合、館長による展示解説対応を実施している。
		ア. 市民による教育普及の推進	【全体】	市民組織等と協議し、連携可能な体験メニューを開発	B	C	時悠館では、企画・助言・連携を推進することを目的とした、「時悠館友の会」が結成され、活動が開始された。比和自然科学博物館では、博物館公開講座の開催にあたり、比和自治振興区と共催とし、連携しながら実施している。歴史民俗資料館では、2つの自治振興区と連携し、庄原の歴史に関する文化講演会を開始した。倉田百三文学館では、友の会と連携し、講演会を開催した。他の館でも、市民組織等と協議を進めていく必要がある。
		【全体】	市民が講師・話題提供者となる講座等の計画と開催	B	C	歴史民俗資料館では、自治振興区郷土史研究会による講演会を行い、「市民参加型」の教育普及の展開ができた。時悠館では、「時悠館友の会」の会員を講師とした講座等を計画している。比和自然科学博物館では、市民研究者チャレンジ企画として、市民のアマチュア研究者や小中学校の生徒児童が展示発表者となる展示を企画募集し実施した。	
		【倉田文学館】	倉田百三友の会との連携	A	C	倉田百三友の会会員等を講師に講演会を行い、「市民参加型」の教育普及の展開ができた。	
		【時悠館】	愛鳥活動(餌がけ)の実施	A	B	帝釈自治振興区に協力し、子供学芸員の手を借りる等して、館内見学等の機会を提供した。	
		【比和科博】	民間団体と連携した学習機会の提供	A	C	博物館公開講座開催にあたり、比婆科学教育振興会及び庄原化石集談会所属の博物館インストラクターの協力を得つつ、学習機会の提供を行った。	
		【比和科博】	自治振興区による「ちいさなおみせ」(ミュージアムショップ)の開催	A	C	比和自治振興区による「ちいさなおみせ」(ミュージアムショップ)を実施することにより、来館者への帰宅後の博物館での思い出と記憶の定着に寄与している。	

基本方針	体系区分	事業区分	対象館	主な取り組み	有効性	継続性	成果・課題	
		イ. ボランティアガイド養成講座の開催	【全体】	ボランティアガイド養成講座	B	C	口和郷土資料館では、後援会の母体はあるが実施には至っておらず、検討課題である。比和自然科学博物館では、博物館インストラクターによりガイド（博物館展示解説）を行うことが定着しており、資質向上のため会議や研修会を持っている。 養成講座については、庄原市観光協会と連携して開催した。養成講座を各館それぞれの実状に合わせて実施いくことが必要である。	
			【全体】	ボランティアガイドによる魅力ある教育普及活動	B	C	口和郷土資料館では、後援会の母体はあるが実施には至っておらず、検討課題である。比和自然科学博物館では、博物館インストラクターの専門・得意分野を活かし、博物館公開講座も担当し、魅力ある教育的普及に努めている。他の館では、館を活動拠点とするボランティアガイドによる教育普及活動の実施には至っていない。今後の課題であり、できることから始めていく。	
		③ 産業振興分野	ア. 観光イベントへの参画	【全体】	自主イベントの企画と実施	A	C	テーマを定め公開講座や特別展、ミニ企画展などを企画し、実施できている。
				【全体】	観光イベントへの参画と出張展示	A	C	備北丘陵公園において、国土交通省三次河川国道事務所、備北公園管理センターと共催し、庄原英学校に関する文化講演会を開催するとともに、関係資料の展示を行った。また、展示パネルを市いちばんづくり課へ提供し、マラニック会場での展示、ウイル西城等での活用を図った。
				【西城収蔵室】	丘陵公園でのたたら展示	C	C	来園者に広く情報発信を行い、所蔵資料の活用につながった。
				【時悠館】	「帝釈峡ウォーク」	A	B	帝釈峡ウォークの主催に参画した（当日は台風で中止）ほか、「湖水まつり」に出展した。
				【口和郷土館】	備北丘陵公園での動態展示	B	C	年間10回程度依頼があり、県内外の方へ新たに口和郷土資料館を知ってもらえた。
				【口和郷土館】	「ふれあいの丘コンサート」	B	C	年1回の音楽コンサートを実施し、来館者の満足度を上げた。
				【口和郷土館】	「ふれあいシネマ」	B	C	年1回の映画鑑賞会を実施し、来館者の満足度を上げた。
				【口和郷土館】	「手作り真空管アンプの会」	B	C	6月、11月に真空管アンプ音楽鑑賞会を実施し、遠くは横浜市、福岡市より来館され2日間で250名が施設を見学した。口コミで広がり新規の来館者獲得になった。

基本方針	体系区分	事業区分	対象館	主な取り組み	有効性	継続性	成果・課題
			【口和郷土館】	カナリアの会の充実	B	C	年 10 回の大勢で懐かしい歌を歌う会（カナリアの会）を実施し、来館者の満足度を上げた。
			【比和科博】	「吾妻山グリーンラリー」	A	C	吾妻山の木々の名前を調べることを通して、自然と実際に触れ合う機会を設け、吾妻山の豊かな自然への興味関心を深めてもらう機会を提供できている。
			【比和科博】	中国山地豊かな自然写真展（巡回展）	A	A	中国山地豊かな自然写真展を巡回実施してきたが、平成 30 年度までの実施で終了とした。今後、これまでに蓄積してきた写真を活用した展示等を検討する。
		イ. ボランティアスタッフによる館外活動	【全体】	観光イベント等でのボランティアスタッフによる館外 PR 活動	B	C	比和自然科学博物館では、山開きの開催に合わせて、博物館公開講座を開催し、館長及び博物館インストラクターにより登山客へ初夏の草花のガイドを行い、更なる魅力の伝える機会を設けることができ、博物館の PR となった。今後は、育成されたボランティアスタッフが有効に活用されるよう、本庁・支所との連携を進める必要がある。
		ウ. ガイダンス機能の向上	【全体】	観光部局と連携した案内すべき題材の精選	B	C	庄原市観光協会の観光地づくり講座等で、縄文キャンプ等のアイデアがだされ鹿角製釣針の製作実験等にも成功した。
	【全体】		観光施設等へのガイダンスコーナーの検討と設置	B	C	近隣観光施設への割引券の試験的設置やパンフレット設置、ポスター掲示は実施できたが、ガイダンスコーナーの設置まではできなかった。	
	【庄原歴史民館】		庄原市全体のガイダンスコーナーの設置	A	A	ガイダンスコーナーの設置により、各館及び市内の自然・歴史・文化を総合的に案内することができ、市民や観光客等の利便性の向上が図れた。	

■各取り組み達成率総括表(123 事業の取り組み)

有効性				継続性			
種別		件数	割合	種別		件数	割合
A	非常に高い	50 件	41%	A	完了	8 件	7%
B	高い	71 件	58%	B	拡大継続	9 件	7%
C	普通	2 件	1%	C	現状維持	102 件	83%
D	低い	0 件	0%	D	改善継続	4 件	3%
E	非常に低い	0 件	0%	E	廃止	0 件	0%

(5) 評価・検証のまとめ

第2期計画では各館の運営方針を定め、機能向上と連携啓発を横断的に充実させるための基本方針に基づいた123事業の具体的な取り組みを実施した。その取り組みの有効性については99%が高い有効性、継続性を見たときにも現状維持以上の判断をしたものが97%となっている。これらのことから考えてみても、第2期計画の各取り組みは継続して実施すべき効果的な取り組みが実施できたと考えられ、これにより本来の博物館・資料館の活動の基盤となる環境が整ったと考えられる。この効果が、入館者の増員へつながってきている。

一部で課題を残したものの、これまでを振り返ると平成21年度に提出された『庄原市博物館・資料館の今後のあり方に関する意見書』で指摘された博物館・資料館離れについて、第1期計画による効果的な対策、第2期計画による多様な観点からの事業展開によって、課題として挙げていたものについて、いくつか解決できており目標に向けて前進してきている。

ただし、これまでの計画実施において、各館・支所・本庁との連携や役割分担等の明確化が進まなかったことや、連絡調整会議などによる連携体制の構築ができなかったこと、伴って市内全体を対象として計画していた詳細事業の取り組みが不十分な館等があった。

今後も各館・支所・本庁が情報共有を十分行うなど連携を深め、地域を巻き込む取り組みなど計画的な事業を展開し、各館の目標達成に向けて努力をする。

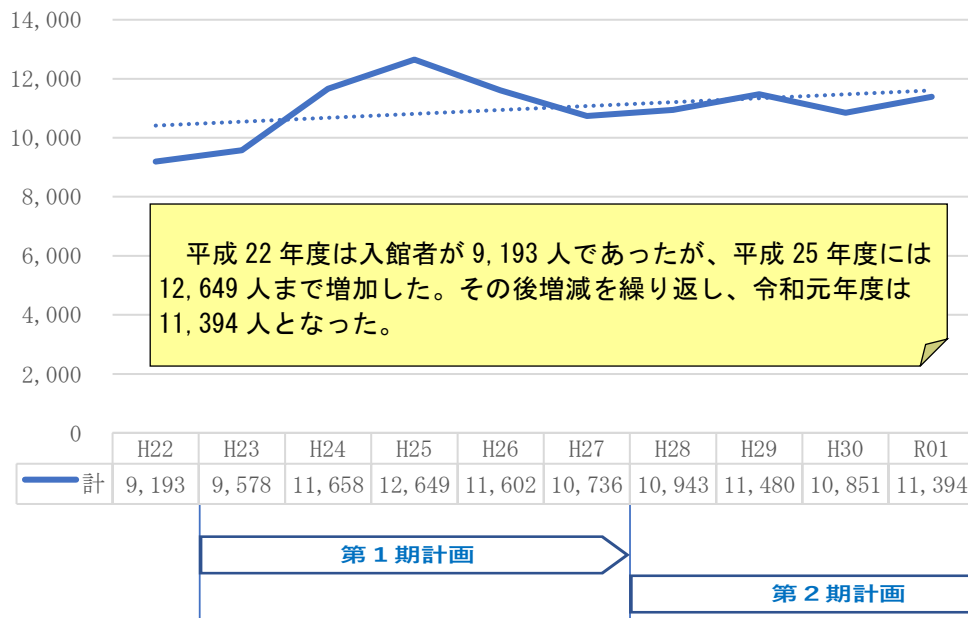


宮島水族館連携交流事業

■入館者数の推移

【単位：人】

名 称	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	備考
比和自然科学博物館	1,545	1,333	3,475	4,071	3,786	2,835	3,456	3,485	3,016	3,980	
帝釈峡博物展示施設時悠館	2,949	2,991	2,767	2,967	2,736	1,930	1,573	1,573	2,490	2,826	週6日開館
口和郷土資料館	2,263	2,547	2,105	2,444	2,083	2,545	2,288	2,384	1,843	1,926	週3日開館
庄原市歴史民俗資料館 倉田百三文学館	2,153	2,342	3,032	3,062	2,920	3,283	3,555	3,897	3,461	2,591	週6日開館
西城收藏学習室	188	327	248	52	55	93	64	131	20	68	
総領收藏学習室	95	38	31	53	22	50	7	10	21	3	
計	9,193	9,578	11,658	12,649	11,602	10,736	10,943	11,480	10,851	11,394	



比和自然科学博物館長展示解説の様子

第2章 第3期計画の基本的な考え方

1. 基本理念

庄原市の博物館・資料館においては、これまでの計画で積み上げてきたものを引き継ぎながら確実に地域文化の再発見、郷土愛の醸成、魅力ある地域社会の再形成というサイクルを実現することが大切である。第3期計画においては、重点的な施策を中心とした事業を展開することで、集中的に機能強化を図り、より一層特色を活かした「全国に誇れる市民の博物館・資料館」としての在り方を具現化していくよう努力する。

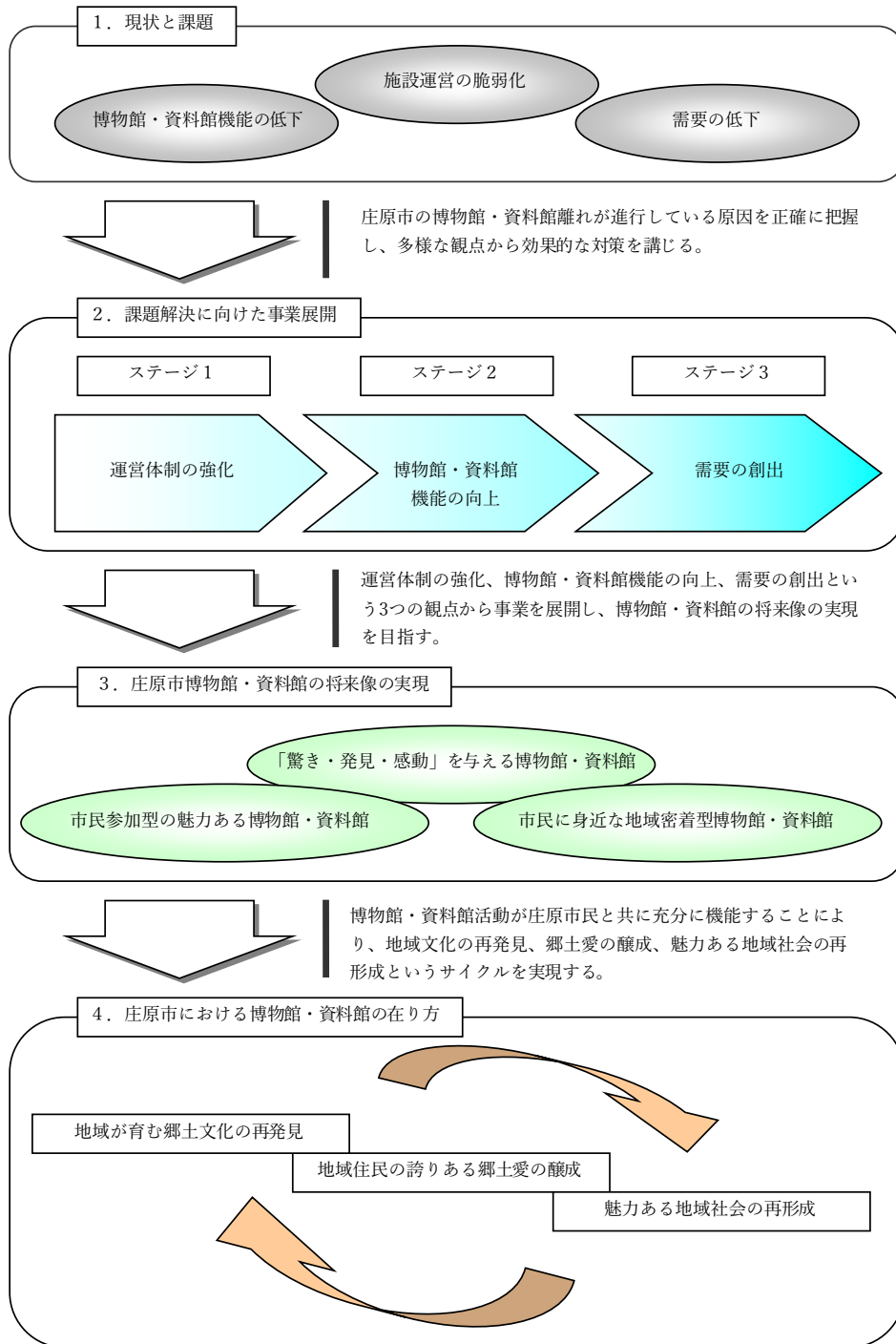


図 庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画の理念

2. 業務の体系

博物館・資料館の主な機能は3つ（収集保管、調査研究、教育普及）に分類される。

当市博物館・資料館の業務の体系は、これら3大機能の向上に向けた業務に、施設運営に関する基本的業務、多様な主体との連携・啓発を加えた5つの要素が複合している。

これらをバランスよく推進し、博物館・資料館の総合的な機能向上を図る。

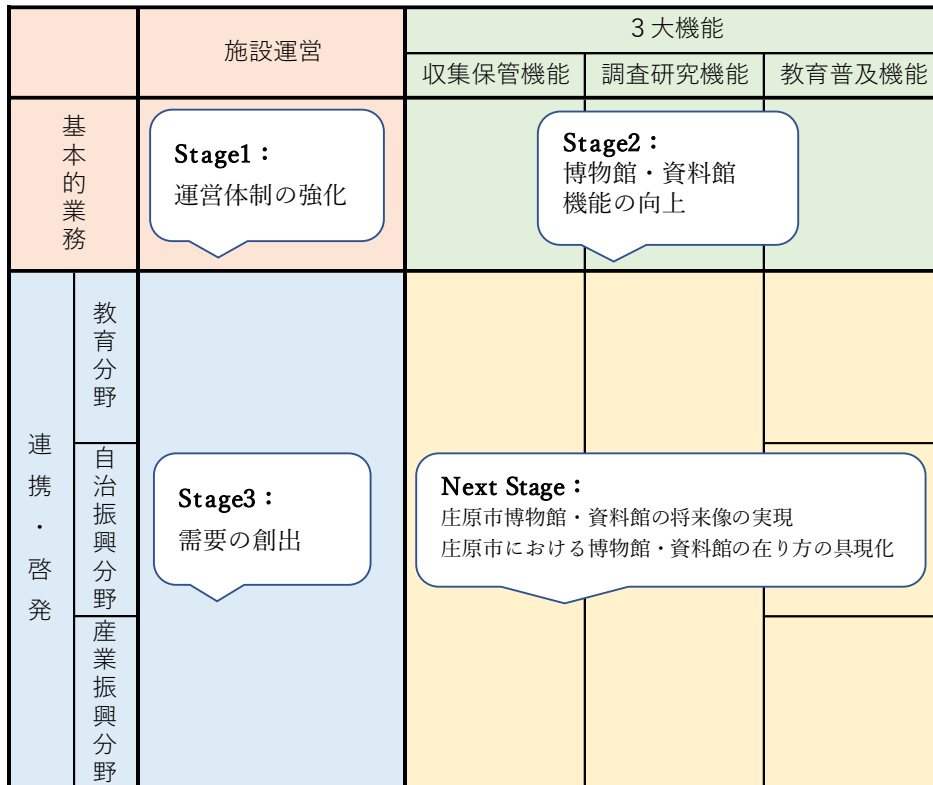


図 第2期計画の業務の体系

3. 基本的運営方針

第2期計画の実施期間において、各館は、館のテーマの確認を行うとともに、社会的に果たしていくべき目的（ミッション）と、そのために目指すべき状態（ビジョン）を明確化し、さらにビジョンを具現化していくための運営方針（基本的業務、収集保管、調査研究、教育普及、連携・啓発）を定め、これに基づく館運営を進めてきた。

これらは、博物館法第8条の規定に基づく博物館の設置及び運営上の望ましい基準（平成23年12月20日文科科学省告示第165号）第3条に準拠するものであり、同法が適用される比和自然科学博物館及び帝釈峡博物展示施設時悠館はもちろんのこと、同法が適用されない口和郷土資料館、庄原市歴史民俗資料館、倉田百三文学館においても、各館の運営体制に合わせた形で、引き続き同基準の基本的運営方針のもとで館運営の向上を図る。

第3期計画では、テーマ・ビジョン・ミッションを各館の実状にあった内容に見直しを行うこととし、さらに全館共通のテーマ・ビジョン・ミッションを定めることにより、職員が博物館・資料館の目指すものを共有しやすい環境の実現を図る。

第3章 博物館・資料館がめざすもの

1. 施策目的

これまで全館が目指すこととして、第1期計画では、博物館・資料館離れの打開、施設運営の脆弱化等の課題解決を中心とした、3つのステージ（1. 運営体制の強化、2. 博物館・資料館機能の向上、3. 需要の創出）からなる事業を展開した。また、「庄原市における博物館・資料館の在り方」を「郷土文化を凝集した『地域密着型』の施設」と位置づけた。

第2期計画では、(①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館、②市民参加型の魅力ある博物館・資料館、③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館)を目標に、事業を取り組んできており、目標達成に向けたコンセプトとして「全国に誇れる市民の博物館・資料館」を掲げた。

第3期計画では、各館の収蔵資料は唯一無二の市民の宝物であることから、「かけがえのない庄原市の宝物」を全館共通のテーマとして新たに掲げる。また、第2期計画において目標達成のコンセプトとした「全国に誇れる市民の博物館・資料館」を全館共通のビジョンとして掲げる。さらに、第1期計画以来提示し続けた「庄原市における博物館・資料館の在り方」である「郷土文化を凝集した『地域密着型』の施設」を改めて全館共通のミッションとして掲げるものとする。これらの実現を第3期計画の施策目的と定め、具体的な取り組みを次章に記載し推進する。

2. 全館共通のテーマ及び各館のテーマ

庄原市博物館・資料館のテーマ	
かけがえのない庄原市の宝物	
名 称	各館のテーマ
比和自然科学博物館	中国山地の自然と人とのかかわり
帝釈峡博物展示施設時悠館	全国に誇れる帝釈峡遺跡群と帝釈峡の自然
口和郷土資料館	先人の「知恵と技」が吹き込まれた音と映像
庄原市歴史民俗資料館	庄原市の古代から近代へ亘る歴史文化
倉田百三文学館	倉田百三とゆかりの地

3. 全館共通のビジョン及び各館のビジョン（めざす将来像）

庄原市博物館・資料館のビジョン	
全国に誇れる市民の博物館・資料館	
名 称	各館のビジョン
比和自然科学博物館	中国山地の魅力を発信する博物館
帝釈峡博物展示施設時悠館	帝釈峡と人々をつなぐビジターセンター
口和郷土資料館	先人の「知恵と技」が息づく、木造校舎のレトロな郷土資料館
庄原市歴史民俗資料館	歴史文化を学びにつなげる資料館
倉田百三文学館	市民に親しまれる倉田百三文学館

【将来像】全国に誇れる市民の博物館・資料館

- (1) 「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館
継続的な調査研究活動・多様な教育普及活動・魅力ある情報提供を充実させ、利用するごとに新たな驚き・発見・感動を与えることができる博物館・資料館を目指す。
- (2) 市民参加型の魅力ある博物館・資料館
市民の意見を運営に反映させ、市民が博物館・資料館の中に参加することで、より積極的に郷土の魅力を利用者に発信できる博物館・資料館を目指す。
- (3) 市民に身近な地域密着型の博物館・資料館
観光イベントや郷土文化の学習を通じて、地域との連携の中で事業を展開していくことで、市民にとって身近で気軽に利用できる博物館・資料館を目指す。

4. 全館共通のミッション及び各館のミッション（社会的に果たしていくべき役割）

庄原市博物館・資料館のミッション	
郷土文化を凝集した『地域密着型』の施設	
名 称	各館のミッション
比和自然科学博物館	広島県内唯一の自然史系博物館としての知的遊園地機能の発揮
帝釈峡博物展示施設時悠館	帝釈峡遺跡群及び帝釈峡の地域資源としての活用と継承
口和郷土資料館	道具に息づく先人の「知恵と技」への学びと継承
庄原市歴史民俗資料館	歴史文化の再発見と学びの拠点
倉田百三文学館	庄原市ゆかりの文学者 倉田百三の情報拠点としての充実

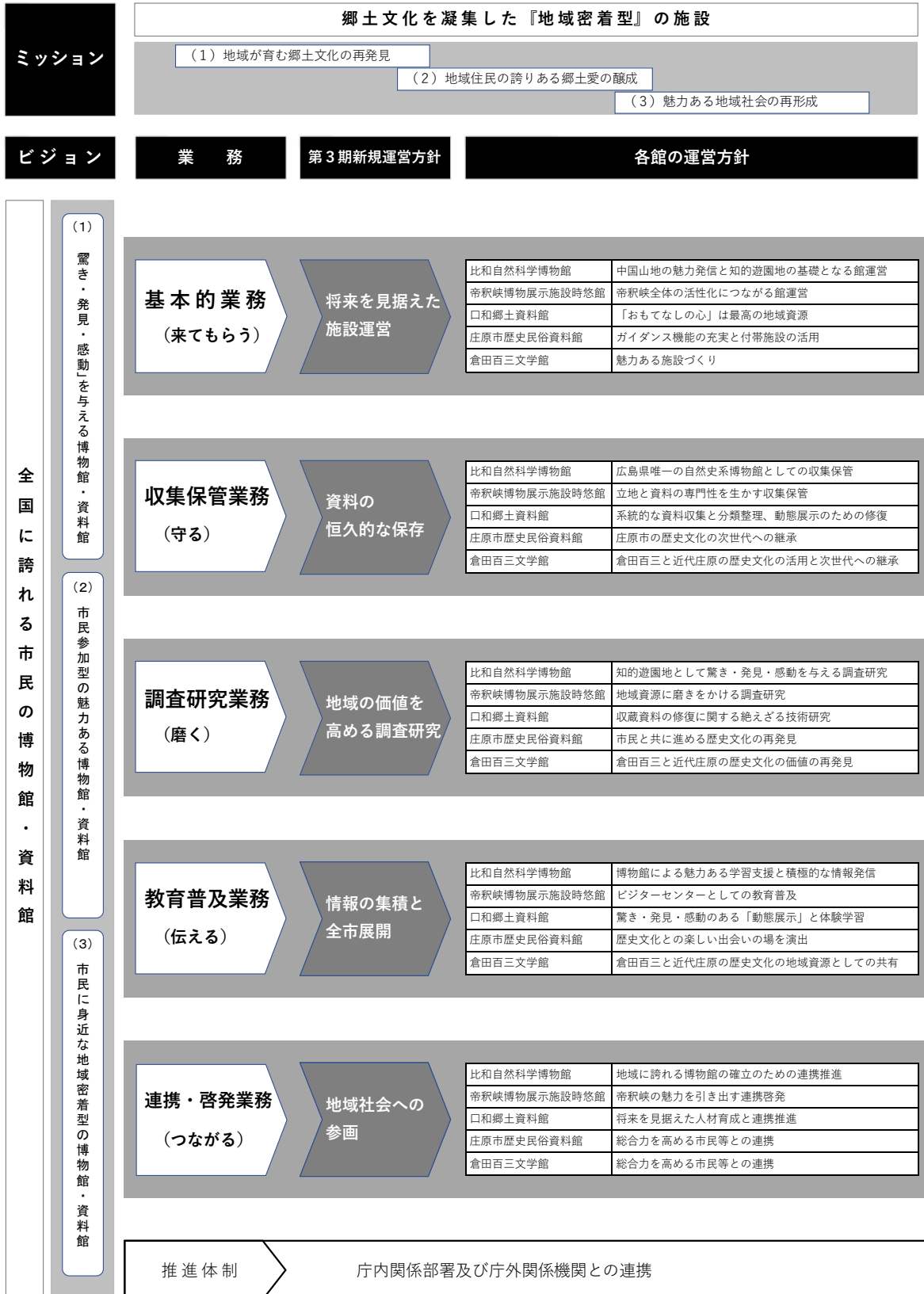
【役割】郷土文化を凝集した『地域密着型』の施設

- (1) 地域が育む郷土文化の再発見
庄原市には246件の史跡や天然記念物をはじめとする指定文化財、帝釈峡や比婆山にみられる自然、たたら・山城跡などの遺跡が身近に、数多く残っている。博物館・資料館の活動は、そのような身近にありながらも接することの少ない自然・文化遺産を魅力的に紹介し、学ぶ機会を提供する。
- (2) 地域住民の誇りある郷土愛の醸成
庄原市がこれまで遺してきた自然・文化遺産に触れ、その歴史の価値を理解することで、自分の育った町に対し愛着を持ち、郷土文化を継承したいという郷土愛を育む場として機能する。
- (3) 魅力ある地域社会の再形成
地域と連携した取り組みを実施していく中で、市民が新たな郷土文化の在り方について考え、魅力的な地域社会を積極的に形成できるよう支援する場として機能する。

第4章 計画の内容

1. 計画の体系

第3章で明示した施策目的を推進するため、次のとおり計画体系を示す。



2. 具体的な取り組み

第3期計画では、第2期計画の評価・検証を踏まえ、「継続」とした116事業をもとに改善・集約し、新規事業を加えた次の具体的な取り組みを進めることで、機能強化を図る。

基本的業務 (来てもらう)

第3期計画においては、第2期計画の業務を踏襲しながら、新たに運営方針として、「**将来を見据えた施設運営**」を加え、多くの人に来てもらうための仕事として、次の事業を展開する。

(1) 各館のテーマ及び方針の明確化

各館のテーマ・ミッション・ビジョン及び運営方針に基づき事業を展開するとともに、新たに全体的運営方針を掲げ、全市的な観点のもとで「庄原市における博物館・資料館の将来像」の実現をめざす。また、実情に合わせて見直しを行う。

(2) 各館・支所・本庁が連携した管理運営体制の確立

各館・収蔵学習室の運営規模に応じた役割を再検討し、各館・支所・本庁の持続可能な管理運営体制を確立する。会議の定期開催を通じて情報共有を図り連携を深める。

(3) ニーズを反映した親しみやすい館運営と施設管理

把握したニーズを館運営に反映させ、利用者優遇措置の拡充を含めた入館者増の取り組みを進める。来館者に配慮した表示の見直しと施設の維持修繕を進める。

(4) 将来を見据えた施設運営

複数名の学芸員が各館の学芸業務に横断的に従事する体制を構築するとともに、学芸業務の向上のための館長・職員研修を実施する。また、老朽化対応や業務改善を着実に進め、施設管理計画に基づき必要な修繕等の施設管理を計画的に行う。



客員研究員によるインストラクター研修会

(5) 中国山地の魅力発信と知的遊園地の基礎となる館運営（比和自然科学博物館）

「中国山地の自然と人とのかかわり」をテーマとして、多様な利用者のニーズに応えるため各種博物館事業に取り組み、利用者の興味関心を高める知的遊園地としての基盤となる安定した館運営を実施する。

(6) 帝釈峡全体の活性化につながる館運営（帝釈峡博物展示施設時悠館）

上帝釈へ多くの観光客に訪れてもらい、ひいては帝釈峡全体の活性化につなげる目的で整備された施設としての“原点”に立ち返り、そのための館運営を進める。

(7) 「おもてなしの心」は最高の地域資源（口和郷土資料館）

最高の地域資源である昔ながらの「おもてなしの心」来館者に気遣いや心配りをする気持ちでお迎えし、往年の音響・映像機器や民具の動態展示を存分に楽しんでもらう。そのための施設整備を計画的に進める。

(8) ガイダンス機能の充実と付帯施設の活用（庄原市歴史民俗資料館）

本市全域における歴史・民俗の概要及び特徴的資料も把握できるガイダンス機能を有した施設として事業展開する。

(9) 魅力ある施設づくり（倉田百三文学館）

倉田百三に関する世界で唯一無二の文学館として、貴重な資料を収集保管する。また、火野葦平に関する資料も本市ゆかりのある文学者の研究拠点として役割を担う。



施設と環境の維持管理

収集保管業務 (守る)

第3期計画においては、第2期計画の業務を踏襲しながら、新たに運営方針として、「資料の恒久的な保存」を加え、市民の宝物を守るための仕事として、次の事業を展開する。

(1) テーマに基づく系統的な資料収集

地域に眠る宝物を、市民とともに見出し、テーマに基づいて系統的に収集する。ネットワークを駆使して様々な分野の専門家や研究団体等とも連携し、推進する。

(2) 収集資料の整理と保存

集めた資料をベストな状態で守るため、適正に整理・収納し、温度・湿度・光量等の最適な環境下で保存に万全を期し、錆や虫害等の劣化から防ぐ。

(3) 資料の記録管理及び貸出

資料貸出や寄託更新等の記録管理を行い、各館・支所・本庁で統一的に把握する。収集保管活動に広く市民等の協力を得ることで、宝物を守る体験を共有する。

(4) 資料の恒久的な保存

市民等から負託された宝物を未来へと守り伝えるため、専門家や広く市民等と連携し、標本や資料等の恒久的な保存に最善を尽くす。



鳥取大学寄贈のミンククジラ骨格標本

(5) 広島県唯一の自然史系博物館としての収集保管（比和自然科学博物館）

自然史系博物館としてのノウハウと関係研究者との連携を活用し、「中国山地の自然と人とのかかわり」に関連した資料を収集・保管・整理を進めることで、中国山地のありのままの姿を次世代に継承する。

(6) 立地と資料の専門性を生かす収集保管（帝釈峡博物展示施設時悠館）

立地と資料の専門性を生かし、帝釈峡遺跡群と帝釈峡及び周辺 naturally or historically related natural or historical culture related materials are collected, stored, and organized to enhance the strength of the region and the museum.

(7) 系統的な資料収集と分類整理、動態展示のための修復（口和郷土資料館）

テーマに基づく系統的な資料収集に努め、分類整理するとともに、当館最大の魅力である音響・映像機器の動態展示に必要な修復を計画的に実施する。

(8) 庄原市の歴史文化の次世代への継承（庄原市歴史民俗資料館）

本市全域における歴史・民俗関係のガイダンス機能を担えるよう、各テーマに基づく系統的な資料収集に努める。

(9) 倉田百三と近代庄原の歴史文化の活用と次世代への継承（倉田百三文学館）

郷土の文豪倉田百三の文学館であることの認識を新たにし、既に収集している貴重な資料を恒久的に保存できるよう努める。



収蔵室での収納状況

調査研究業務 (磨く)

第3期計画においては、第2期計画の業務を踏襲しながら、新たに運営方針として、「**地域の価値を高める調査研究**」を加え、宝物を磨き上げるための仕事として、次の事業を展開する。

(1) テーマに基づく資料の調査研究

市民の宝物である収蔵資料について、専門家との連携・調査研究を重ね、市民と共に共有し、町づくりに生かす。

(2) 展示及び運営に関する調査研究

各館が全国に誇る収蔵資料を最大限に生かし、驚き・発見・感動を与える展示が行えるよう、展示及び運営に関する調査研究を幅広く進める。

(3) 周辺の自然・歴史・文化に関する調査研究

各館が立地する地域とその周辺の自然・歴史・文化について、多様な主体と連携して調査研究を進め、地域に眠る宝物を見つけ出し、磨く。

(4) 地域の価値を高める調査研究

地域に関する既存の知識と新たな研究成果をつないで再編集し、地域に潜在していた本来のポテンシャルを顕在化させ、館と地域の新たな価値の創造に資する。



小学生との共同研究

(5) 知的遊園地として驚き・発見・感動を与える調査研究（比和自然科学博物館）

収蔵資料はもとより、現在の中国山地の自然のフィールドを研究対象とし、専門的知見から学術的価値を高め、分かりやすく「驚き・発見・感動」を与えられる知的遊園地としての機能が増進できるよう関係機関との連携により調査研究を進める。

(6) 地域資源に磨きをかける調査研究（帝釈峡博物展示施設時悠館）

多様な主体と連携し、帝釈峡遺跡群と帝釈峡及び周辺の自然や歴史文化を調査研究し、成果を市民と共有することで、地域資源としての帝釈峡にさらなる磨きをかける。

(7) 収蔵資料の修復に関する絶えざる技術研究（口和郷土資料館）

貴重な収蔵資料に関する資料研究に加えて、動態展示に向けた修復に関する技術研究に努め、広く全国的な視野で専門家等と連携し情報共有と技術交流を進める。

(8) 市民と共に進める歴史文化の再発見（庄原市歴史民俗資料館）

収蔵資料について、「驚き・発見・感動」を与える展示及び運営に関する調査研究も幅広く進める。

(9) 倉田百三と近代庄原の歴史文化の価値の再発見（倉田百三文学館）

既に収集している貴重な資料について、「驚き・発見・感動」を与える展示及び運営に関する調査研究も進める。



岡山理科大学と連携した化石調査研究

教育普及業務 (伝える)

第3期計画においては、第2期計画の業務を踏襲しながら、新たに運営方針として、「**情報の集積と全市展開**」を加え、地域の物語を伝えるための仕事として、次の事業を展開する。

(1) テーマに基づく展示の充実と更新

地域に眠る宝物を収集保管調査研究し、専門家との連携で磨き上げ、各館の展示を通して市民に伝えていく。

(2) 学習支援の充実

地域の物語を、各館の活動を通じて広く市民と共有する。地域のことを深く学び合うことを通じて、かけがえない故郷への深い愛情を共に育てていく。

(3) 情報発信

様々な情報手段を効果的に活用し、各館や地域が有する資料の共有を図り、多くの方に当市の魅力を発信する。そのための通信環境の整備を検討していく。

(4) 情報の集積と全市展開

各館の情報を一元管理する仕組みを構築し、デジタル技術も用いて幅広く発信する。すべての市民が各館の受益者となるよう館活動の全市展開を図る。



テレビ局体験

(5) 博物館による魅力ある学習支援と積極的な情報発信（比和自然科学博物館）

県内唯一の自然史系博物館である魅力を活かし、「中国山地の自然と人とのかかわり」の教育普及の中核を担い、「驚き・発見・感動」のある学習機会の充実を図るとともに、様々な手法により積極的な情報発信を実施する。

(6) ビジターセンターとしての教育普及（帝釈峡博物展示施設時悠館）

帝釈峡のビジターセンターとして、帝釈峡遺跡群と帝釈峡及び周辺 naturally or historically significant areas の自然や歴史文化の教育普及の中核を担い、「驚き・発見・感動」のある学びを広く発信する。

(7) 驚き・発見・感動のある「動態展示」と体験学習（口和郷土資料館）

本物でしか味わえない「驚き・発見・感動」を大切に、実物の動態展示に努めるとともに、見て触れて楽しく学べる「おもしろ体験教室」等、体験学習の手法を積極的に導入する。市内小中学校への発信・紹介を行う。

(8) 歴史文化との楽しい出会いの場を演出（庄原市歴史民俗資料館）

郷土文化との出会い・再発見をめざし、庄原市の歴史・文化に関する講座、講演会や施設見学、展示解説等をとおして、市民等の郷土学習、学校の学習活動を支援する。また、ガイダンス機能として、各館へ足を運ぶきっかけとなる情報発信に努める。

(9) 倉田百三と近代庄原の歴史文化の地域資源としての共有（倉田百三文学館）

常設展示の更新・充実を図るとともに、講演会や施設見学をとおして、倉田百三に触れる機会を提供し、興味関心を高める。市内小中学校への発信・紹介を行う。



吾妻山グリーンラリー風景

連携・啓発業務 (つながる)

第3期計画においては、第2期計画の業務を踏襲しながら、新たに運営方針として、「地域社会への参画」を加え、町づくりの役に立つための仕事として、次の事業を展開する。

(1) 教育機関と連携した館運営

教育機関と連携を進め、学ぶことの素晴らしさを誰もが享受できる館運営を図り、庄原市教育基本計画の実現を目指す。特に次代を担う子供たちの学びの場を提供する。

(2) 市民と連携した館運営

ボランティアガイドをはじめ、市民の幅広い層からなる館活動へのボランティアの協力を得て館運営を図る。

(3) 産業と連携した館運営

庄原DMOをはじめ観光や農林業等、多様な産業分野と連携し、ともに地域の価値を高めていくことを通じて、地域になくてはならない「地域密着型」の館運営を図る。

(4) 地域社会への参画

館活動の成果を広く人々と共有し、未来への町づくりに積極的に参画していくことで、「郷土文化を凝集した『地域密着型』の施設」を実現する。



博学連携の推進

(5) 地域に誇れる博物館の確立のための連携推進（比和自然科学博物館）

比和自然科学博物館友の会・比婆科学教育振興会・庄原化石集談会・比和自治振興区・市内小中学校・関係研究機関・地域報道機関等、多様な関係機関と連携して中国山地の魅力を共に掘り起こし、地域に誇れる博物館の確立を目指す。

(6) 帝釈峡の魅力を引き出す連携啓発（帝釈峡博物展示施設時悠館）

時悠館友の会・帝釈文化研究会・自治振興区・市内小中学校・広島大学等、多様な主体と連携して帝釈峡の魅力を共に掘り起こす。

(7) 将来を見据えた人材育成と連携推進（口和郷土資料館）

口和自治振興区や庄原DMO等と連携し資料館の良さを皆さんに知ってもらい、また当館最大の魅力である音響・映像機器の動態展示と修復を担う人材の育成を進める。

(8) 総合力を高める市民等との連携（庄原市歴史民俗資料館）

県内の博物館・資料館等の社会教育施設や観光関係機関等と積極的に連携・協力し、資料館としての総合力を高める。

(9) 総合力を高める市民等との連携（倉田百三文学館）

県内外の文学館等の社会教育施設、倉田百三友の会、観光関係機関等と積極的に連携・協力し、文学館としての総合力を高める。



友の会講演会

■具体的な取り組みを各館共通、本庁、各館ごとに整理

各館共通

業務	運営方針	具体的な取り組み
基本業務	各館のテーマ及び方針の明確化	各館のテーマ・ミッション・ビジョン及び運営方針に基づき事業を展開するとともに、新たに全体的運営方針を掲げ、全市民的観点のもとで「庄原市における博物館・資料館の将来像」の実現をめざす。また、実情に合わせて見直しを行う。 ○愛称やキャラクター等の起用を含めた魅力化
	各館・支所・本庁が連携した管理運営体制の確立	各館・収蔵学習室の運営規模に応じた役割を再検討し、各館・支所・本庁の持続可能な管理運営体制を確立する。会議の定期開催を通じて情報共有を図り連携を深める。 ○持続可能な運営体制のもとでの連携強化
	ニーズを反映した親しみやすい館運営と施設管理	把握したニーズを館運営に反映させ、利用者優遇措置の拡充を含めた入館者増の取り組みを進める。来館者に配慮した表示の見直しと施設の維持修繕を進める。 ○アンケート調査等で把握したニーズを反映した館運営 ○来館者に配慮した表示の見直しと施設の維持修繕の実施
	将来を見据えた施設運営	複数名の学芸員が各館の学芸業務に横断的に従事する体制を構築するとともに、学芸業務の向上のための館長・職員研修を実施する。また、老朽化対応や業務改善を着実に進め、施設管理計画に基づき必要な修繕等の施設管理を計画的に行う。 ○施設管理計画の検討及び維持修繕の実施
収集保管業務	テーマに基づく系統的な資料収集	地域に眠る宝物を、市民とともに見出し、テーマに基づいて系統的に収集する。ネットワークを駆使して様々な分野の専門家や研究団体等とも連携し、推進する。 ○各館の運営方針に基づく系統的な資料収集 ○ネットワークを駆使した資料収集
	収蔵資料の整理と保存	集めた資料をベストな状態で守るため、適正に整理・収納し、温度・湿度・光量等の最適な環境下で保存に万全を期し、錆や虫害等の劣化から防ぐ。 ○資料等の受入と台帳記載・電子データ化 ○収蔵資料等の整理・保存及び保存環境の維持管理 ○日常点検・清掃、計画的な燻蒸、資料及び設備等の修理保全
	資料の記録管理及び貸出	資料貸出や寄託更新等の記録管理を行い、各館・支所・本庁で統一的に把握する。収集保管活動に広く市民等の協力を得ることで、宝物を守る体験を共有する。 ○庄原市教育委員会収蔵資料取扱規則に基づく所蔵資料等の貸出と記録管理 ○寄託資料の更新と、データベース入力・更新、共有による資料の状態把握 ○収集保管活動を通じて市民等が本物の資料に触れる機会の提供
	資料の恒久的な保存	市民等から負託された宝物を未来へと守り伝えるため、専門家や広く市民等と連携し、標本や資料等の恒久的な保存に最善を尽くす。 ○専門家を交えた標本や資料等の状態把握とメンテナンス ○資料保存及び取り扱いに関する研修の充実 ○各館の特性に応じた収蔵資料の振り分け
調査研究業務	テーマに基づく資料の調査研究	市民の宝物である収蔵資料について、専門家との連携・調査研究を重ね、市民と共に共有し、町づくりに生かす。 ○各館の運営方針に基づく収蔵資料の調査研究 ○市民・専門家・関係機関と連携した調査研究の推進 ○調査研究を反映した館運営及び地域還元
	展示及び運営に関する調査研究	各館が全国に誇る収蔵資料を最大限に生かし、驚き・発見・感動を与える展示が行えるよう、展示及び運営に関する調査研究を幅広く進める。 ○展示及び運営に関する積極的な事例調査 ○調査成果を反映した展示及び館運営 ○広島県歴史民俗資料館等連絡協議会等と連携した情報収集及び研修

	周辺の自然・歴史・文化に関する調査研究	各館が立地する地域とその周辺の自然・歴史・文化について、多様な主体と連携して調査研究を進め、地域に眠る宝物を見つけ出し、磨く。 ○各館が立地する地域とその周辺の自然・歴史・文化についての調査研究 ○多様な主体と連携した地域資源の掘り起こし
	地域の価値を高める調査研究	地域に関する既存の知識と新たな研究成果をつないで再編集し、地域に潜在していた本来のポテンシャルを顕在化させ、館と地域の新たな価値の創造に資する。 ○全市的な観点から館と地域の価値を高める調査研究 ○関係機関と連携した各館横断的業務としての地域研究
教育普及業務	テーマに基づく展示の充実と更新	地域に眠る宝物を収集保管調査研究し、専門家との連携で磨き上げ、各館の展示を通して市民に伝えていく。 ○各館の運営方針に基づく展示の充実と更新 ○企画展・特別展等の計画と実施
	学習支援の充実	地域の物語を、各館の活動を通じて広く市民と共有する。地域のことを深く学び合うことを通じて、かけがえない故郷への深い愛情を共に育んでいく。 ○講演会や学習会等、市民が主役となる学びの場の提供 ○郷土学習支援事業の展開とプログラムの開発 ○パネル展示・スポット展示及び地域行事との連携 ○次世代を担う子供たちの心を捉える展示
	情報発信	様々な情報手段を効果的に活用し、各館や地域が有する資料の共有を図り、多くの方に当市の魅力を発信する。そのための通信環境の整備を検討していく。 ○市 HP・SNS やマスコミ、印刷物を活用した全国に向けた情報発信 ○オンライン活動のための通信環境の整備 ○観光部門と連携したガイダンス設備の充実及び各種イベントへの参画
	情報の集積と全市展開	各館の情報を一元管理する仕組みを構築し、デジタル技術も用いて幅広く発信する。すべての市民が各館の受益者となるよう館活動の全市展開を図る。 ○情報発信環境の整備 ○オンライン講座等の実施と充実 ○市内外からの学校の受入れ ○出前授業及び市外教育施設での講演等の実施
連携・啓発業務	教育機関と連携した館運営	教育機関と連携を進め、学ぶことの素晴らしさを誰もが享受できる館運営を図り、庄原市教育基本計画の実現を目指す。特に次代を担う子供たちの学びの場を提供する。 ○教育機関との連携の推進 ○研究機関・専門家等との連携による館機能の向上 ○子供たちへの学びの場提供及び児童・生徒の力を借りた館運営
	市民と連携した館運営	ボランティアガイドをはじめ、市民の幅広い層からなる館活動へのボランティアの協力を得て館運営を図る。 ○友の会等地域の各種団体と連携した館運営 ○人材登録（地域版・全市版）の促進
	産業と連携した館運営	庄原DMOをはじめ観光や農林業等、多様な産業分野との連携を推進し、ともに地域の価値を高めていくことを通じて、地域になくってはならない「地域密着型」の館運営を図る。 ○観光産業組織（DMO等）との連携に関する協議及び事業実施
	地域社会への参画	館活動の成果を広く人々と共有し、未来への町づくりに積極的に参画していくことで、「郷土文化を凝集した『地域密着型』の施設」を実現する。 ○郷土資料の情報発信と啓発事業の展開

本庁

業務	運営方針	具体的な取り組み
基本業務	各館のテーマ及び方針の明確化	各館のテーマ・ミッション・ビジョン及び運営方針に基づき事業を展開するとともに、新たに全体的運営方針を掲げ、全市的な観点のもとで「庄原市における博物館・資料館の将来像」の実現をめざす。また、実情に合わせて見直しを行う。 ○全市的な観点からの各館のさらなる特化
	各館・支所・本庁が連携した管理運営体制の確立	各館・収蔵学習室の運営規模に応じた役割を再検討し、各館・支所・本庁の持続可能な管理運営体制を確立する。会議の定期開催を通じて情報共有を図り連携を深める。 ○各館・収蔵学習室の運営規模に応じた役割の再検討 ○持続可能な運営体制のもとでの連携強化 ○各収蔵学習室の施設管理マニュアルの整備
	ニーズを反映した親しみやすい館運営と施設管理	把握したニーズを館運営に反映させ、利用者優遇措置の拡充を含めた入館者増の取り組みを進める。来館者に配慮した表示の見直しと施設の維持修繕を進める。 ○キャンパスメンバーズ制度を拡充した利用者優遇措置 ○近隣市町の博物館割引制度等を参考とした入館者増の取り組みの検討
	将来を見据えた施設運営	複数名の学芸員が各館の学芸業務に横断的に従事する体制を構築するとともに、学芸業務の向上のための館長・職員研修を実施する。また、老朽化対応や業務改善を着実に進め、施設管理計画に基づき必要な修繕等の施設管理を計画的に行う。 ○学芸業務を担う専門人材の確保に向けた協議の継続 ○施設管理計画の検討及び維持修繕の実施
収集保管業務	資料の恒久的な保存	市民等から負託された宝物を未来へと守り伝えるため、専門家や広く市民等と連携し、標本や資料等の恒久的な保存に最善を尽くす。 ○資料保存及び取り扱いに関する研修の充実 ○各館の特性に応じた収蔵資料の振り分け ○高野支所と連携した高野収蔵学習室整備の検討
調査研究業務	周辺の自然・歴史・文化に関する調査研究	各館が立地する地域とその周辺の自然・歴史・文化について、多様な主体と連携して調査研究を進め、地域に眠る宝物を見つけ出し、磨く。 ○多様な主体と連携した地域資源の掘り起こし
	地域の価値を高める調査研究	地域に関する既存の知識と新たな研究成果をつないで再編集し、地域に潜在していた本来のポテンシャルを顕在化させ、館と地域の新たな価値の創造に資する。 ○全市的な観点から館と地域の価値を高める調査研究
教育普及業務	学習支援の充実	地域の物語を、各館の活動を通じて広く市民と共有する。地域のことを深く学び合うことを通じて、かけがえない故郷への深い愛情を共に育んでいく。 ○郷土学習支援事業の展開とプログラムの開発
	情報発信	様々な情報手段を効果的に活用し、各館や地域が有する資料の共有を図り、多くの方に当市の魅力を発信する。そのための通信環境の整備を検討していく。 ○市 HP・SNS やマスコミを活用した全国に向けた情報発信 ○市広報・冊子・ポスター・チラシ等の印刷物を介した情報発信 ○観光部門と連携したガイドダンス設備の充実及び各種イベントへの参画

連携・啓発業務	教育機関と連携した館運営	<p>教育機関と連携を進め、学ぶことの素晴らしさを誰もが享受できる館運営を図り、庄原市教育基本計画の実現を目指す。特に次代を担う子供たちの学びの場を提供する。</p> <p>○教育機関との連携の推進</p>
	市民と連携した館運営	<p>ボランティアガイドをはじめ、市民の幅広い層からなる館活動へのボランティアの協力を得て館運営を図る。</p> <p>○ボランティアガイドの育成 ○人材登録（地域版・全市版）の促進</p>
	地域社会への参画	<p>館活動の成果を広く人々と共有し、未来への町づくりに積極的に参画していくことで、「郷土文化を凝集した『地域密着型』の施設」を実現する。</p> <p>○郷土資料の情報発信と啓発事業の展開 ○庄原 DMO 等関係機関との間での会議等への相互参画</p>

比和自然科学博物館

業務	運営方針	具体的な取り組み
基本業務	中国山地の魅力発信と知的遊園地の基礎となる館運営	<p>「中国山地の自然と人とのかかわり」をテーマとして、多様な利用者のニーズに応えるため各種博物館事業に取り組み、利用者の興味関心を高める知的遊園地としての基盤となる安定した館運営を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安定した博物館運営のための博物館関係者との連携強化 ○比和自然科学博物館の特色を活かした魅力ある各種博物館事業の検討と実施 ○来館者のニーズに対応した長期的な博物館施設の改修計画の検討
収集保管業務	広島県唯一の自然史系博物館としての収集保管	<p>自然史系博物館としてのノウハウと関係研究者との連携を活用し、「中国山地の自然と人とのかかわり」に関連した資料の収集・保管・整理を進めることで、中国山地のありのままの姿を次世代に継承する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然科学系研究者及び団体と連携した資料収集 ○標本資料報告などの資料台帳の電子データ化及び収蔵資料の再点検 ○市内博物館・資料館と連携した自然科学系資料の活用検討 ○逼迫する収蔵資料の保管状況の改善検討及び実施
調査研究業務	知的遊園地として驚き・発見・感動を与える調査研究	<p>収蔵資料はもとより、現在の中国山地の自然のフィールドを研究対象とし、専門的知見から学術的価値を高め、分かりやすく「驚き・発見・感動」を与えられる知的遊園地としての機能が増進できるよう関係機関との連携により調査研究を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内の自然に関する調査研究 ○中国山地の生物の多様性に関連した調査研究 ○大学研究機関と連携した収蔵資料の調査研究 ○比婆科学教育振興会及び庄原化石集談会と連携した調査研究
教育普及業務	博物館による魅力ある学習支援と積極的な情報発信	<p>県内唯一の自然史系博物館である魅力を活かし、「中国山地の自然と人とのかかわり」の教育普及の中核を担い、「驚き・発見・感動」のある学習機会の充実を図るとともに、様々な手法により積極的な情報発信を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中国山地の自然をフィールドとした魅力ある博物館公開講座の継続実施 ○常設展示の改善検討及び実施の継続 ○博物館長出張授業や博物館展示解説による学習機会の充実 ○従来の紙媒体と合わせてインターネット環境（HP・Facebook等）も活用した積極的な情報発信
連携・啓発業務	地域に誇れる博物館の確立のための連携推進	<p>比和自然科学博物館友の会・比婆科学教育振興会・庄原化石集談会・比和自治振興区・市内小中学校・関係研究機関・地域報道機関等、多様な関係機関と連携して中国山地の魅力を共に掘り起こし、地域に誇れる博物館の確立を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○博物館ボランティア（博物館インストラクター・客員研究員等）の体制の継続強化 ○市内小学校との連携 ○宮島水族館との相互連携交流事業の継続実施 ○市民研究者チャレンジ企画展示の継続実施 ○市内観光関係機関との連携 ○比和自然科学博物館友の会等、多様な主体との連携強化

帝釈峡博物展示施設時悠館

業務	運営方針	具体的な取り組み
基本業務	帝釈峡全体の活性化につながる館運営	<p>上帝釈へ多くの観光客に訪れてもらい、ひいては帝釈峡全体の活性化につながる目的で整備された施設としての“原点”に立ち返り、そのための館運営を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○将来を見据えた管理運営体制の確立 ○出張講座・オンライン講座等も含めた受益者総数の拡大 ○ニーズに対応した施設の見直し及びリニューアル ○隣接する屋外体験施設にかかる管理の見直し
収集保管業務	立地と資料の専門性を生かす収集保管	<p>立地と資料の専門性を生かし、帝釈峡遺跡群と帝釈峡及び周辺の自然や歴史文化に関連する資料を収集・保管し、整理を進めることで、地域と館の強みを高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料台帳のデータ化及び収蔵資料の再点検 ○広島大学との連携による帝釈峡遺跡群出土文化財の台帳共有化 ○市内出土文化財にかかる優品の精選及び収集 ○各館及び市民等と連携した旧帝釈郷土館資料の活用検討
調査研究業務	地域資源に磨きをかける調査研究	<p>多様な主体と連携し、帝釈峡遺跡群と帝釈峡及び周辺の自然や歴史文化を調査研究し、成果を市民と共有することで、地域資源としての帝釈峡にさらなる磨きをかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○帝釈峡遺跡群出土石器等の石材流通に関する調査研究 ○御神山・帝釈天信仰の形成過程に関する調査研究 ○市内の神楽・田植等民俗文化財に関する調査研究 ○時悠館友の会・帝釈文化研究会等による調査研究活動への参画
教育普及業務	ビジターセンターとしての教育普及	<p>帝釈峡のビジターセンターとして、帝釈峡遺跡群と帝釈峡及び周辺の自然や歴史文化の教育普及の中核を担い、「驚き・発見・感動」のある学びを広く発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オープン以来変更されていない常設展示の見直し及びリニューアル ○未刊行となっている常設展示図録の検討及び作成 ○関係団体と連携した史跡等の活用促進及び観光産業への協力 ○Facebook や Zoom 等のデジタル技術の本格的活用
連携・啓発業務	帝釈峡の魅力を引き出す連携啓発	<p>時悠館友の会・帝釈文化研究会・自治振興区・市内小中学校・広島大学等、多様な主体と連携して帝釈峡の魅力を共に掘り起こす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○帝釈峡遺跡群 60 周年記念事業への参画 ○市内小中学校との連携 ○観光産業との相互協力体制の構築 ○時悠館友の会等、多様な主体との連携強化

口和郷土資料館

業務	運営方針	具体的な取り組み
基本業務	「おもてなしの心」は最高の地域資源	<p>最高の地域資源である昔ながらの「おもてなしの心」来館者に気遣いや心配りをする気持ちでお迎えし、往年の音響・映像機器や民具の動態展示を存分に楽しんでもらう。そのための施設整備を計画的に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○来館者に配慮した施設の維持修繕 ○レトロな雰囲気を残した時代別・種類別展示の確立
収集・保管業務	系統的な資料収集と分類整理、動態展示のための修復	<p>テーマに基づく系統的な資料収集に努め、分類整理するとともに、当館最大の魅力である音響・映像機器の動態展示に必要な修復を計画的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○収蔵品のデータベース化と収蔵資料の再点検 ○テーマに基づく資料の情報収集等
調査研究業務	収蔵資料の修復に関する絶えざる技術研究	<p>貴重な収蔵資料に関する資料研究に加えて、動態展示に向けた修復に関する技術研究に努め、広く全国的な視野で専門家等と連携し情報共有と技術交流を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国立科学博物館との交流 ○音響関係企業との交流
教育普及業務	驚き・発見・感動のある「動態展示」と体験学習	<p>本物でしか味わえない「驚き・発見・感動」を大切に、実物の動態展示に努めるとともに、見て触れて楽しく学べる「おもしろ体験教室」等、体験学習の手法を積極的に導入する。市内小中学校への発信・紹介を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ミニ放送局」映像体験教室や「物づくり子ども教室」の開催 ○近隣小学校等への学習支援 ○アナログ・デジタル比較紹介
連携・啓発業務	将来を見据えた人材育成と連携推進	<p>口和自治振興区や庄原DMO等と連携し資料館の良さを皆さんに知ってもらい、また当館最大の魅力である音響・映像機器の動態展示と修復を担う人材の育成を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光団体、観光施設との連携 ○修復技術の伝承

庄原市歴史民俗資料館

業務	運営方針	具体的な取り組み
基本業務	ガイダンス機能の充実と付帯施設の活用	本市全域における歴史・民俗の概要及び特徴的資料も把握できるガイダンス機能を有した施設として事業展開する。 ○効果的なガイダンスの検討 ○各収蔵学習室の施設管理マニュアルの整備
収集保管業務	庄原市の歴史文化の次世代への継承	本市全域における歴史・民俗関係のガイダンス機能を担えるよう、各テーマに基づく系統的な資料収集に努める。 ○収蔵品のデータベース化と収蔵資料の再点検 ○収蔵学習室を含む収蔵資料の保管状況の改善及び保管場所の検討
調査研究業務	市民と共に進める歴史文化の再発見	収蔵資料について、「驚き・発見・感動」を与える展示及び運営に関する調査研究も幅広く進める。 ○市民、市民団体や研究機関等との連携による推進 ○展示及び運営にかかる調査研究
教育普及業務	歴史文化との楽しい出会いの場を演出	郷土文化との出会い・再発見をめざし、庄原市の歴史・文化に関する講座、講演会や施設見学、展示解説等とおして、市民等の郷土学習、学校の学習活動を支援する。また、ガイダンス機能として、各館へ足を運ぶきっかけとなる情報発信に努める。 ○市民が参加しやすい「文化講演会」等の開催 ○「勾玉づくり」や「土器づくり」など、歴史文化を学べる子ども向け教室の開催 ○近隣小学校等の学習活動の支援
連携・啓発業務	総合力を高める市民等との連携	県内の博物館・資料館等の社会教育施設や観光関係機関等と積極的に連携・協力し、資料館としての総合力を高める。 ○各自治振興区における郷土史研究グループ等との連携 ○市内観光関係機関との連携 ○国営備北丘陵公園のたたら展示等の連携

倉田百三文学館

業務	運営方針	具体的な取り組み
基本業務	魅力ある施設づくり	<p>倉田百三に関する世界で唯一無二の文学館として、貴重な資料を収集保管する。また、火野葦平に関する資料も本市ゆかりのある文学者の研究拠点として役割を担う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○倉田百三友の会との連携 ○資料展示の充実に向けた改修計画の検討
収集保管業務	倉田百三と近代庄原の歴史文化の活用と次世代への継承	<p>郷土の文豪倉田百三の文学館であることの認識を新たに、既に収集している貴重な資料を恒久的に保存できるよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○倉田百三友の会等と連携した資料収集 ○収蔵資料の展示スペースの確保
調査研究業務	倉田百三と近代庄原の歴史文化の価値の再発見	<p>既に収集している貴重な資料について、「驚き・発見・感動」を与える展示及び運営に関する調査研究も進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○倉田百三友の会と連携し、発見・感動を与える展示に向けた調査研究 ○他市町の文学館の展示及び運営を調査研究
教育普及業務	倉田百三と近代庄原の歴史文化の地域資源としての共有	<p>常設展示の更新・充実を図るとともに、講演会や施設見学をとおして、倉田百三に触れる機会を提供し、興味関心を高める。市内小中学校への発信・紹介を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民が参加しやすい「文化講演会」等の開催 ○常設展示の更新・充実を図り、施設見学の際、倉田百三作品に触れる機会を提供し、興味関心を高める ○子供を対象とした説明文設置や、興味関心がわく取り組み ○映像等を活用した展示の工夫
連携・啓発業務	総合力を高める市民等との連携	<p>県内外の文学館等の社会教育施設、倉田百三友の会、観光関係機関等と積極的に連携・協力し、文学館としての総合力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○倉田百三友の会と連携し、施設見学の際、倉田百三により深く触れる機会の提供 ○市内小中学校等の学習活動の支援 ○市内観光関係機関との連携

第5章 事業評価の基準

1. 定期的な事業評価

本計画の取り組みについては、各館・支所・本庁において毎年度末の事業実績の客観的評価を行い、庄原市博物館・資料館運営協議会と情報共有する。

また、令和5年度に中間年評価を行い状況の確認を実施する。令和7年度までの計画期間の5年間の見通しをもち計画期間内での「郷土文化を凝集した『地域密着型』の施設」の実現を図る。

2. 事業評価の視点

事業評価の視点として、将来の入館料・入館者数のみでなく、オンライン発信の閲覧数や出前講座等の参加数等も加えて総合的に客観評価する。各館共通、本庁、各館で掲げた具体的な取り組みについて、事業水準の向上を図り、ミッションを果たすためのものとなっているかを見極め、有効性、継続性の視点から評価する。

3. PDCAサイクルの実践

毎年度の客観的評価を行う際、Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）のプロセスを通じて、各事業が目標達成の手段として実際に機能しているかを検証し、積極的に内容を見直すことで、精度を高めていく必要がある。

また、年度内においても、定期開催する庄原市博物館・資料館運営協議会の意見を聞きながら、各館・支所・本庁による連絡調整会議等の機会を活用し、当該サイクルを実践する。

4. 将来に向けて

第3期計画では、「支所・本庁・各館の連携と体制づくり」「全市共通のテーマ・ビジョン・ミッションに基づく、各館の体制に応じた独自性を持った事業展開」を重視し、第2期計画までの取り組みにおいて構築された事業体系を基礎に、ミッションの実施を通じたビジョンの実現に向けて、各館の具体的な取り組みを計画したものとなっている。

第3期計画以降の庄原市の一体的な事業推進を見すえ、これまで構築してきた事業体系を将来にわたり発展的に継続して事業展開ができる仕組みづくりを、本庁・支所・各館の相互の連携を十分に行っていく中で構築することを目指し、各年度の具体的な取り組みの実施状況を庄原市博物館・資料館運営協議会と本庁・支所・各館が連携して検証し、将来につながる事業評価を実施することとする。